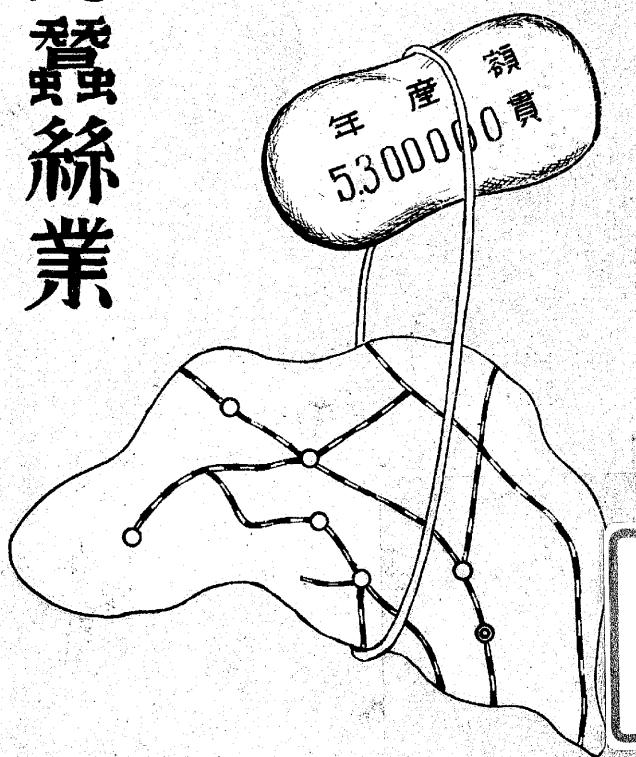


# 埼玉縣之蚕糸業

1928年11月

# 埼玉縣之蠶絲業



10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

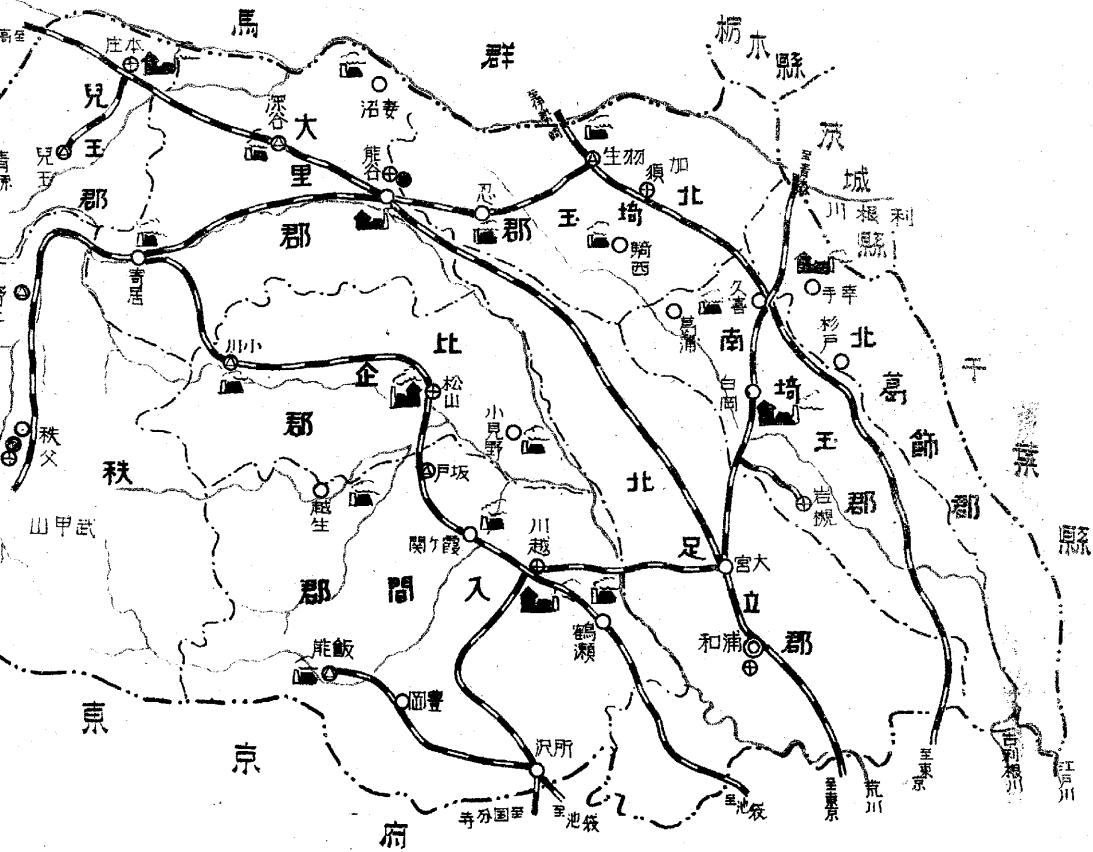
昭和共進會開催ニ際シ本縣蠶絲業ノ沿革並現時  
ノ情勢一斑ヲ蒐錄シ洽クス業者ノ参考ニ資セシ

トス

昭和三年十一月

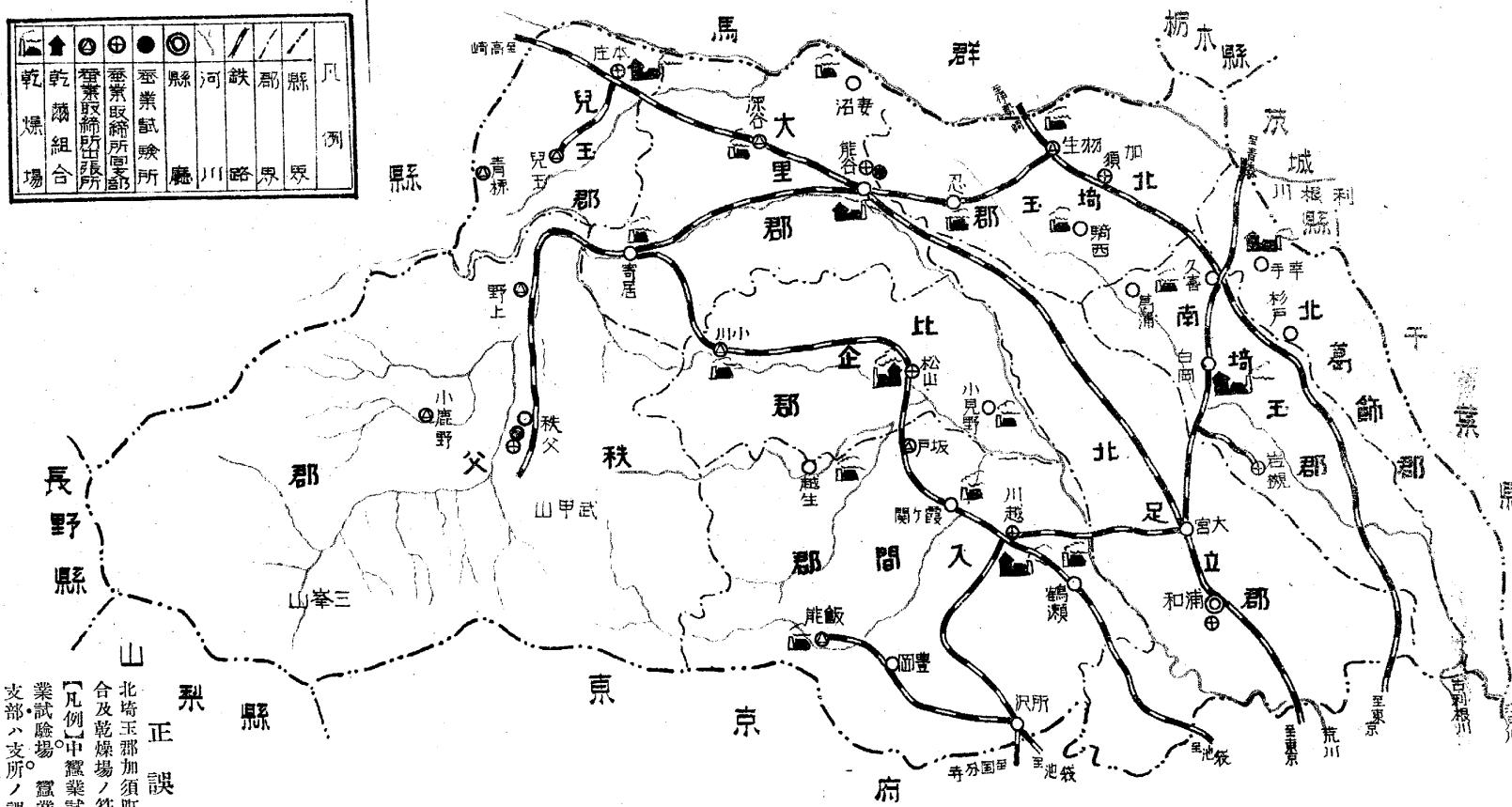
大日本蠶絲會埼玉支會

埼玉縣管内圖



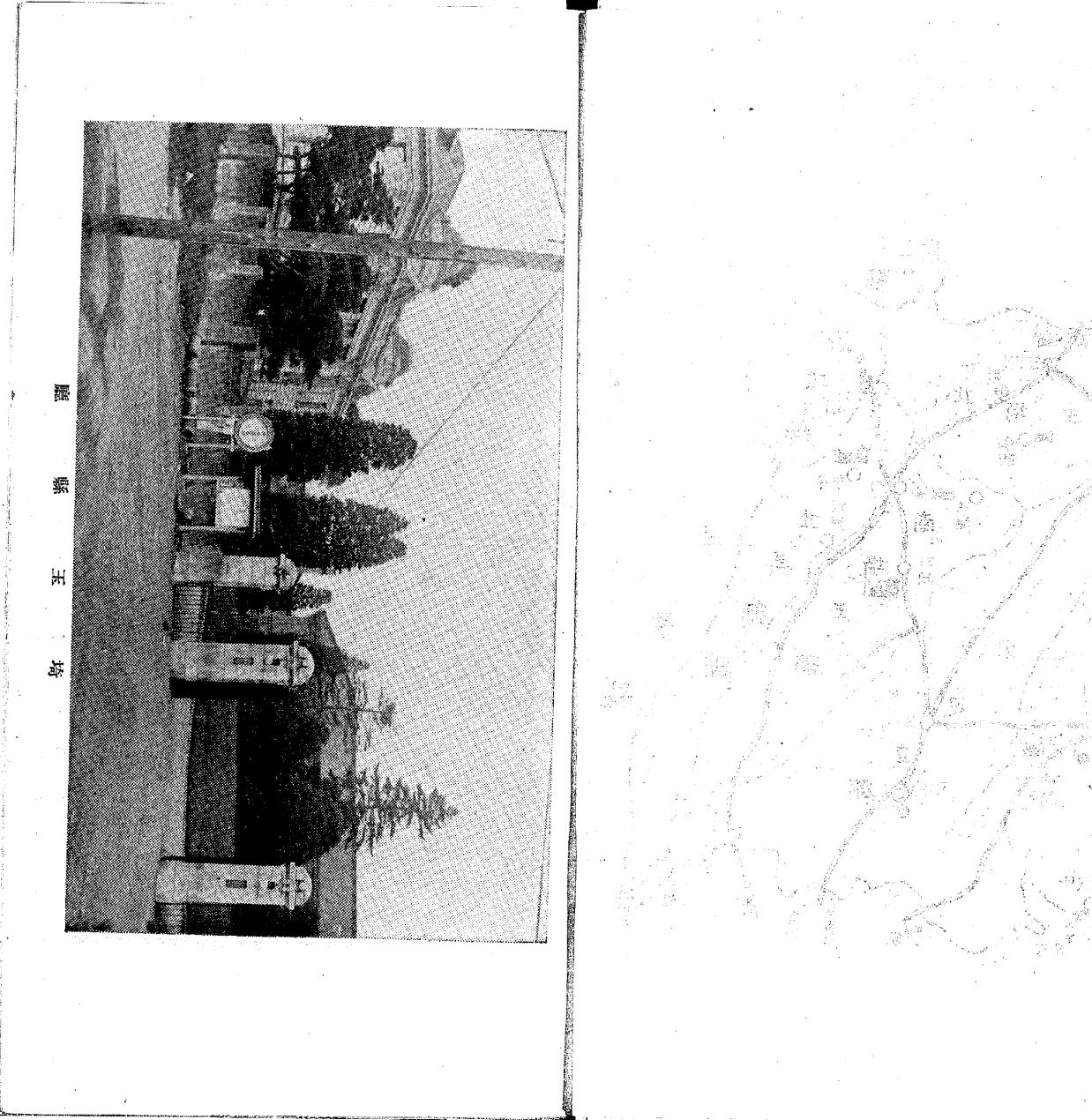
埼玉縣管内圖

乾燥組合	實業試驗所	河川路	縣界
實業試驗所同部	實業試驗所同部	河川路	縣界
乾燥組合	實業試驗所同部	河川路	縣界
乾燥組合	實業試驗所同部	河川路	縣界

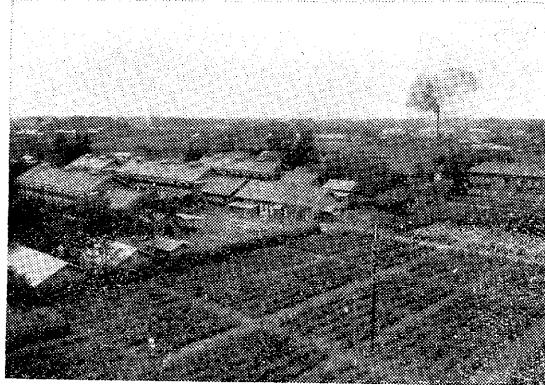


正誤  
北埼玉郡加須町へ乾燥組合及乾燥場ノ符號ヲ入ル。  
【凡例】中實業試驗所ハ實業試驗所同部ハ支所ノ誤。

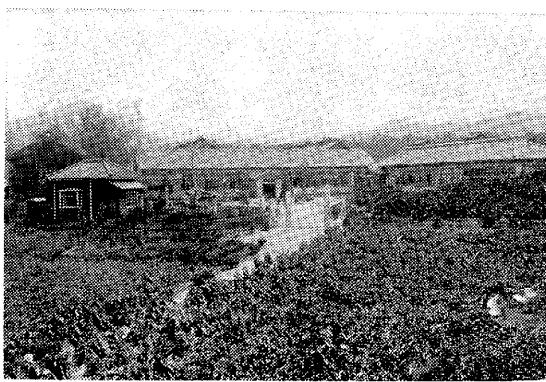
埼玉県立  
92114



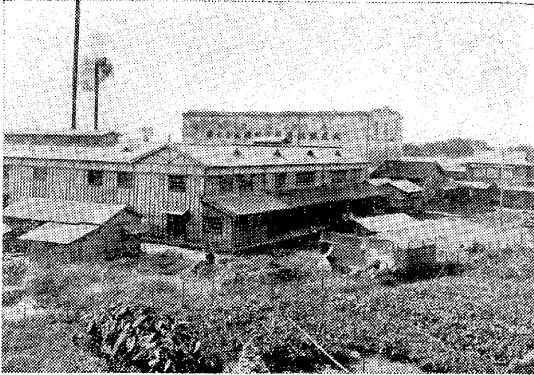
王 峨 藝



埼玉縣蠶業試驗所  
締驗試業蠶同



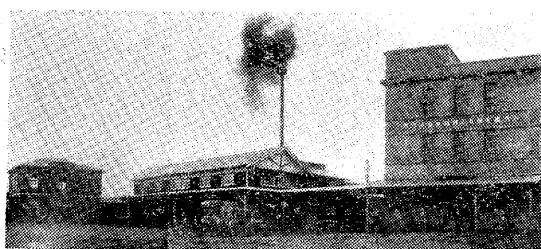
所支父秋所締驗試業蠶  
場支父秋驗試業蠶同



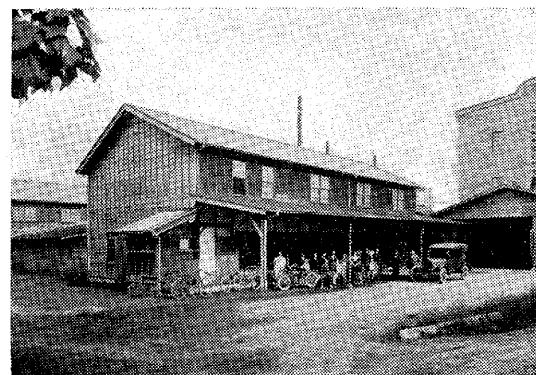
合組用利賣販蘭乾郡里大任責限有



合組用利賣販糸生任責限有  
社玉埼會合聯



合組用利賣販蘭乾郡間入任責限有



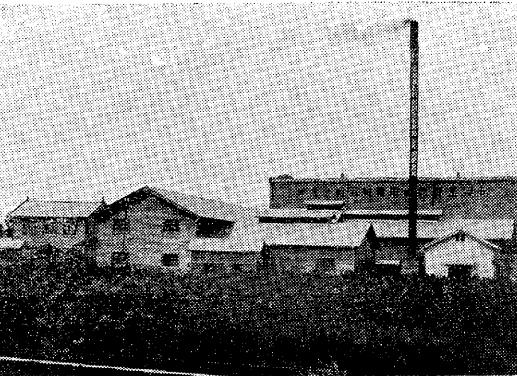
合組用利賣販蘭郡企比任責限有

## 埼玉縣之蠶絲業

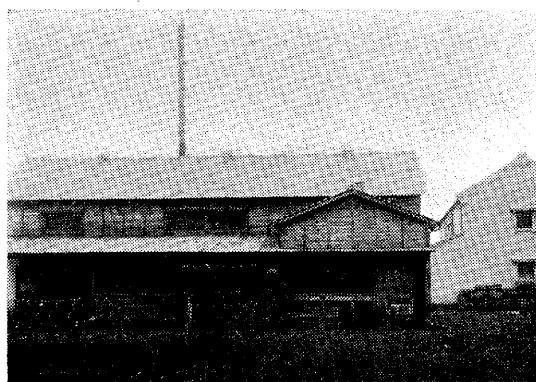
### 目 次

- 一、縣勢一斑
- 二、蠶絲業ノ沿革
- 三、本邦蠶絲業上ニ於ケル本縣ノ地位
- 四、蠶絲業ノ現狀
  - (1) 栽桑
  - (2) 種蠶
  - (3) 養蠶
  - (4) 蘭取
  - (5) 絲引
- 五、蠶絲業ノ施設

一四三二〇二三二四四四四四



有任責北塘玉郡蘭賣利用組合



有任責北葛郡飾蘭賣利用組合

- 聖 吾 天 福 天 福 天 福 天 福  
蠶絲課  
蠶業取締所  
蠶業試驗場  
蠶業教育  
 (1) 縣立蠶業學校  
 (2) 縣立熊谷農學校  
 (3) 縣立秩父農林學校  
 (4) 縣立杉戶農業學校  
 (5) 競進社實業學校  
 (6) 飯能實業學校  
 (五) 獎勵施設

## 六、蠶絲業團體

- (一) 埼玉縣蠶絲業組合聯合協會  
 (二) 埼玉縣桑苗同業組合  
 (三) 埼玉縣蠶種同業組合  
 (四) 埼玉縣蠶種販賣同業組合  
 (五) 埼玉縣蠶種冷藏業組合  
 (六) 埼玉縣養蠶組合聯合會  
 (七) 埼玉縣養蠶技術協會  
 (八) 埼玉縣蠶繭協會  
 (九) 埼玉縣繭絲同業組合  
 (十) 埼玉縣製絲同業組合  
 (十一) 有限責任生絲販賣利用組合聯合會埼玉社  
 (十二) 大日本蠶絲會埼玉支會

# 埼玉縣の蠶糸業

## 一、縣勢一班

### 一、位 置

本縣ハ關東平野ノ西部ニ位シ古ノ所謂武藏野ノ過半ト秩父山嶺ヲ領有シ南方一帶ハ東京府ト地相交錯シ其ノ南端ハ東京市ヲ距ルコト僅ニ六哩ニ過ギズ、西ハ關東山脈ニ依リテ山梨、長野ノ兩縣ト境シ北及東ヘ利根川、烏川、神流川、渡良瀬川及其分流權現堂川、江戸川ヲ隔テ、群馬、栃木、茨城、千葉ノ諸縣ニ對ス

### 二、面 種

面積ハ二百四十六方里、東西二十四里、南北十三里ニシテ全管ヲ川越市、北足立、入間、比企、秩父、児玉、大里、北埼玉、南埼玉、北葛飾ノ九郡ニ分チ四十三町、三百二十

### 五箇村ヲ包有ス 三、戸 口

大正十四年度、國勢調査ノ結果ニ依レバ人口ハ百三十九萬四千四百六十一人其世帯數二十五萬三千二百六十一ニシテ平均一世帯ノ人口ハ五人五分ニシテ全一方里ニ付五千七百八十人ノ分布ヲ示セリ

#### 四、地勢及氣候

氣候ハ全國氣象區域ノ第五區ニ屬シ地方天氣豫報暴風警戒ハ地勢ノ狀態ニヨリ縣下ヲ二分シ北足立、入間、比企、兒玉、大里、北埼玉、南埼玉、北葛飾ノ八郡ヲ平原部トシ秩父郡ヲ山岳部トシ北方山脈ニヨリ裏日本ヲ割リ南東方ハ房總ノ平野ヲ隔テ、太平洋ニ面スルヲ以テ氣候自ラ溫和ナルモ稍々陸地的平原ナルガ故ニ降水量少ク空氣乾燥シ冬季ヨリ春季ニ亘リテハ地方固有ノ風多ク好晴持續シテ大雪ヲ見ルコト稀ナリ然レドモ西部秩父郡ハ千米突以上ノ峻峰屹立スルヲ以テ自ラ趣ヲ異ニシ雨雪多ク氣溫高低ノ差アリト

雖モ要スルニ本縣ノ氣候ハ關西地方ニ及ハザルモ尙東北地方ニ優リ殊ニ八、九月頃ノ候ト雖モ暴雨ノ襲來少ク晴天多ク野外ノ勞役ニ好適ス

氣溫ハ東部ニ高ク西部山岳地方ニ低シ熊谷ニ於ケル平均溫度ハ十三度ニシテ東京ヨリ六度低溫ナルモ同緯度以南ニ位スル長野縣南部、山梨縣等ニ比シ遙ニ溫暖ナリ風ハ冬季ヨリ春季迄ハ北西ノ風每秒二十米突ヲ越ユルコト往々數日ニ涉ルコトアリ南方ニ趨クニ隨ヒ其勢力ヲ減ズ上毛武藏ノ特色ニシテホイン風ト稱ス此風ハ地勢ノ然ラシムル所ニシテ嵐ノ一種ニ屬シ比較的溫カニシテ且ツ乾燥セリ俗ニ之レヲ空風ト稱ス蓋シ水分ヲ含マザルノ意味ナラン然レ共春陽過ギ夏季ニ至レバ稍々濕潤ナル南東風ニ變ズ暴雨ハ八、九月ノ候ニ少クシテ寧ロ冬春ノ季ニ多ク風向キハ平原地方ハ北西ヲ占ムルモ秩父、山岳ハ一樣ナラズ且ツ其速力亦微弱ナリ降雨ハ冬季ニ少ク夏季ニ多ク偶々深厚ナル低氣壓ノ通過ニ際シテ秩父山地ニ猛雨ヲ齎ラシ河川暴漲洪水ヲ見ルノ虞アリ且ツ初夏ノ候甲信地方ヨリ秩父山地ニ屢々雷雨性ノ小低氣壓ヲ生ジ平原地方ニ落雷頻繁ニシテ往々降雹ヲ見ルコトアルノ外天候概不平和ナリ

## 五、交 通

陸路ハ中仙道、奥羽街道、日光街道、水戸街道等ノ外之ニ亞グベキ數條ノ支道縱横ニ貫通シテ車馬ノ往来ニ便ナリ、若シ夫レ鐵路ニ至リテハ上野ヨリ發シ縣ノ中央ヲ貫通シテ信越ニ至ル高崎線アリ、大宮ヨリ岐レテ奥羽ニ達スベキ東北本線アリ、其他東京淺草ヨリ發シ縣ノ東部ヲ縫フテ上毛ニ至ル東武鐵道アリ、高崎線熊谷驛ニ起リテ西ヘ秩父郡影森ニ達シ東ヘ羽生ニ至リ東武鐵道ニ連絡スル秩父鐵道アリ、又中央東線國分寺驛ヨリ起リ川越市ニ達スル西武鐵道川越線、東京池袋ヨリ川越松山ヲ經テ秩父鐵道寄居驛ニ達スル東武鐵道東上線及池袋ヨリ飯能ニ到ル武藏野鐵道、岩槻町ニ起リ東北線蓮田ニ連絡ク備ハル

## 六、産 業

秩父連峯ノ山岳地ハ林產ニ富ミ東南北ノ三面ハ一望涯リナキ沃野千里、土壤膏腴田畠

多ク拓ケ農工產ニ富ム縣内總生產額貳億八千萬圓ニ達シ產物ノ主要ナルモノハ米、織物、生糸、繭、足袋、麥、鑄物、酒、甘藷、大豆、茶等ニシテ西北地方ハ概シテ養蠶並ニ蠶種生糸ノ製造盛ニシテ北部ヨリ南部ニ至ルニ隨ヒ機業發達シ北部ハ絹織物西南部ハ絹織物絹綿交織物ヲ產シ東南部ハ綿織物輸出向織物ヲ產ス、米麥ハ管内ヲ通ジテ各地ヨリ產出スルモ荒川ヲ中心トシテ以東ハ米作地以西ハ麥作地トス、南部東京府ニ接セル地方一帶ハ蔬菜地ニシテ年々東京市ニ移出スルモノ少カラズ要スルニ農業ハ東部地方ニ工業ハ西南部地方ニ盛ニ又商業ハ交通ノ便否ニ伴フモノナルガ故ニ鐵道線路ニ沿ヘル地方ハ遂年戸口增加スルト共ニ貨物ノ集散亦隨テ頻繁ナリ

今昭和元年度ニ於ケル生產狀況ヲ見ルニ農產物壹億九百六拾萬五千四百八拾四圓、工產物壹億五千九百貳拾萬八千貳百八拾五圓、畜產物六百七拾五萬四千七百拾六圓、林產物貳百五拾八萬三百六拾四圓、礦山物百九拾四萬七千四百六拾四圓、水產物拾參萬五千九百九拾四圓、合計貳億八千貳拾參萬千五百七圓ニ上レリ  
左ニ縣勢ノ大略ヲ示セバ







金 貯		郵便爲替 (大正十一年度)		銀 行		爲替	
郵便及銀行替		振出	拂戻	送金	爲替	代金取立	手形
貯金	郵便	郵便	郵便	被仕向	被仕向	被仕向	被仕向
八、二毛、五元	七、三三、三元	三六、七七、四二	六、四七、二五	九、三三、二〇七	六、一〇五、六六	六、一〇五、六六	六、一〇五、六六
郵便人員	郵便人員	郵便人員	郵便人員	郵便人員	郵便人員	郵便人員	郵便人員
三西、〇六	三、九三、七四	一西、〇四	七、八〇七、九四	一西、〇四	七、八〇七、九四	一西、〇四	七、八〇七、九四
平均速度	二・三(秒速)	最多方向	云	昭和元年	云	昭和元年	云

### 七、氣象

測候所(熊谷)	支 所 (秩父)	觀測所	云
天 气	溫 平 均	三〇(度)	極高(八月一日) 三〇(度)
降 水	平 均 天 气	三〇(度)	極低(一月二十四日) 七六(度)
風	總 量	九三七一(箱)	曇 一三 雨 二三 雷 六 雪 一五
	平均速度	二・三(秒速)	日 數 二三
		北北西	最多方向 云

## 二、本縣蠶絲業ノ沿革

本縣蠶絲業ノ起原竝古昔ニ於ケル狀況ハ之ガ溫古ノ資料極メテ乏シク今之ヲ詳カニスルコト難シト雖口碑又ハ諸種ノ考證ニ據リ按ズルニ紀元五百七十年代崇神天皇ノ御宇既ニ多少養蠶行ナヘレタルモノノ如ク同七百七十年代景行天皇ノ御代ニハ普通農事ト竝ビ稱セラル、迄ニ發達シタルモノ、如シ其ノ後歷代ノ皇室斯業ニ大御心ヲ寄セラレ或ハ支那ノ歸化人ヲシ養蠶機織ノコトヲ教ヘシメ或ハ諸國ニ詔シテ桑樹ヲ栽植セシメ或ハ絹絑ヲ貢セシムル等種々ノ手段ヲ以テ之ガ改發ニ努メラレタル爲本縣ノ蠶業亦漸次發達スルニ至レリ一千三百七十五年元正天皇ノ御宇駿河外七箇國ニ居住セル高麗人約一千八百人ヲ本縣ニ移住セシタルガ之等歸化人ハ養蠶機織ノ業ニ精通シ専ラ之レニ從事シタルヲ口碑ノ傳フル所ニ據レバ其後以上ノ高麗人中舊陣屋ヲ毀チ桑園ヲ設ケタルモノアリト云フ是レ蓋シ本縣ニ於ケル桑園設置ノ嚆矢ナランカ爾後數百年間ハ史ノ徵スペキモノナ

ク蠶業ノ事蹟漠然トシテ知ルニ由ナシト雖惟フニ年ト共ニ機械ノ業發達シツ、アリシヲ見レバ斯業亦世運ノ進歩ト共ニ次第ニ發展ノ機運ニ向ヒツ、アルヲ知ルベシ、然ルニ紀元一千六百年代朱雀天皇ノ御宇平將門亂ヲ構ヘテ以來世ハ漸ク擾亂シ政權武門ニ歸シ農民ハ殆ンド兵役ニ疲レテ生業ヲ顧ルノ暇ナキニ至レリ從テ蠶業モ時ニ或ハ多少振興シタル時代無キニシモ非ラザリシガ概ね不振ノ状態ニ陥リツ、アリシモノ、如シ

徳川氏天下ヲ平定シ世ハ太平ヲ謳フニ迨ヒ本縣ノ蠶業亦再び勃興スルニ至リシモ其ノ後幕府ノ方針トシテ奢侈ノ弊ヲ矯正ゼンガ爲禁絹ノ制ヲ布カレタルニ因リテ斯業ハ大打撃ヲ蒙リ萎靡トシテ振ハザルニ至レリ元祿五年武藏外六箇國ノ蠶種商八王子町ニ相會シ諸種ノ盟約ヲ爲シ且ツ蠶種ノ寸法ヲ定メタリ之ヲ見レバ當時ハ勿論其以前ヨリ既ニ多少蠶種製造ノ業行ナハレタルナルベシト雖尙未ダ縣下ノ需要ヲ充タスニ足ルベキ產額ナク多クハ福島縣伊達郡地方ヨリ購入シタルモノ、如シ又嘉永年間秩父郡小鹿野町ノ人森伊左衛門ナル者各地ヲ漫遊シテ製絲ノ術ヲ究メ歸來其方法ヲ同地方ニ弘メ且製絲器械ノ改良ヲ圖リタル以來本縣ノ製糸業ハ漸ク發達スルニ至レリ

安政六年横濱港ヲ開キ外國貿易ノ開始セラル、ヤ從來我ガ國內ノ需要ヲ充タスニ過ギ

ザリシ生糸ハ輸出品中ノ大宗トシテ盛ニ海外ニ輸出セラレ頓ニ我蠶糸業ノ勃興ヲ促シ國内到ル處ニ行ナハル、ニ至レリ本縣ノ蠶糸業亦此ノ好機運ニ促ガサレ次第ニ進歩發達シ維新當時ニ至リテハ繭及生糸等勘カラザル產額ヲ見ルニ至レリ

之ヨリ先西歴一千五百年代即チ我ガ明應時代ノ頃ヨリ歐洲蠶業界ニ微粒子病發生シ爾來年ト共ニ猖獗ヲ極メ我文久、元治ノ頃ニ至リテハ殆ンド無毒ノ蠶卵ヲ得ルコト能ハザルニ至リシヲ以テ蠶種ヲ本邦ニ求メタリ而モ其價格高價ニシテ頗ル有利ナリシヲ以テ本縣ヨリモ盛ニ之ガ製造輸出ヲ爲セリ

而シテ開港以降明治十年頃ニ至ルノ間ハ實ニ一大過渡期ニシテ百般ノ制度未ダ備ハラズ海外ノ情勢ニ通曉セルモノ甚ダ稀ニシテ蠶糸業ノ改良獎勵ニ關スル政策亦統制ヲ缺クノ憾ナキニ非ザリキ明治十年頃ニ至リ專ラ當局ノ獎勵ニ依リ器械製糸業興リタリト雖資金乏シク且經營技術其宜シキヲ得ザリン爲遂ニ成功スルニ至ラザリキ二十年頃ニ於ケル斯業ノ趨勢ハ只管養蠶ノ改良發展ニノミ傾注シ幾多ノ傳習所ト專業的大養蠶家踵ヲ接シテ起リ製糸業ハ寧ロ寂寞ノ感ナキニ非ザリシガ三十年以降ハ養蠶製糸兩々相俟ツテ發達シ而モ此ノ時代ハ國家諸般ノ制度モ整備シ當業者ノ知識技術亦昔日ノ比ニ非ラズ其經營漸



		千新神愛東鹿奈兒					兵庫本川河湯葉蕪					
		全國最多					全國最少					
		製絲場數	總數	生產	價格	絲屑額	物數	製絲場	器數	生產	價格	絲屑額
縣類似ノ府位	順崎玉縣ノ位	長野五、五三	岐阜六、六	山梨四、四九	群馬一、七〇	香川一、九	香川一、九	長野一、八	長野一、八	山梨一、八	群馬一、九	香川一、九
全國平均	順崎玉縣ノ位	長野五、五三	岐阜六、六	山梨四、四九	群馬一、七〇	香川一、九	香川一、九	長野一、八	長野一、八	山梨一、八	群馬一、九	香川一、九
全國最多	順崎玉縣ノ位	長野五、五三	岐阜六、六	山梨四、四九	群馬一、七〇	香川一、九	香川一、九	長野一、八	長野一、八	山梨一、八	群馬一、九	香川一、九
全國最少	順崎玉縣ノ位	長野五、五三	岐阜六、六	山梨四、四九	群馬一、七〇	香川一、九	香川一、九	長野一、八	長野一、八	山梨一、八	群馬一、九	香川一、九

		千新神愛東鹿奈兒					兵庫本川河湯葉蕪					
		全國最多					全國最少					
		製絲場數	總數	生產	價格	絲屑額	物數	製絲場	器數	生產	價格	絲屑額
縣類似ノ府位	順崎玉縣ノ位	長野五、五三	岐阜六、六	山梨四、四九	群馬一、七〇	香川一、九	香川一、九	長野一、八	長野一、八	山梨一、八	群馬一、九	香川一、九
全國平均	順崎玉縣ノ位	長野五、五三	岐阜六、六	山梨四、四九	群馬一、七〇	香川一、九	香川一、九	長野一、八	長野一、八	山梨一、八	群馬一、九	香川一、九
全國最多	順崎玉縣ノ位	長野五、五三	岐阜六、六	山梨四、四九	群馬一、七〇	香川一、九	香川一、九	長野一、八	長野一、八	山梨一、八	群馬一、九	香川一、九
全國最少	順崎玉縣ノ位	長野五、五三	岐阜六、六	山梨四、四九	群馬一、七〇	香川一、九	香川一、九	長野一、八	長野一、八	山梨一、八	群馬一、九	香川一、九

縣似ノ府	岐阜	群馬	富山	山形	山梨	岐阜	山梨
群馬	四〇三	六九、一六八	二七、四三	五〇、三三	五、七八	二六、八三	五、七六
五、七五		京都	二七、四三	奈川		兵庫	七、二五
九九、五四		九九、五四	岐阜	五〇、三三			
三重	九八、一〇八	京都	五〇、八八	山形	二五〇、三三	山形	二四、西三
九八、五七三		九九、五四	岐阜	五〇、三三	新潟	二五〇、四四	山形
			五、七八	六三	六三	二四、西三	二八、四七
				山形	七、九四	東京	七、九四
				二五〇、三三			

本表ハ大阪府該當ナシ

#### 四、蠶糸業ノ現状

##### (一) 裁桑

###### 一、沿革

明治二年川越藩主松平大和守ハ領民ニ對シ大ニ蠶業ノ獎勵ヲ爲シ桑苗十五萬本ヲ群馬縣ヨリ求メ領内各町村ニ植付ケシメ且ツ教師ヲ派シテ栽桑ノ實地指導ヲナサンメタリ其ノ後縣ニ於テハ屢々告諭ヲ發シ或ハ吏ヲ派シテ桑園ノ増植及改良ヲ獎勵シタリシガ明治六年四月荒川堤外ヘ桑樹栽植ノ目的ヲ以テ開墾許可ヲ申請セシニ直ニ許可セラレ爾來堤外ニ桑園ヲ設タルモノ年々增加スルニ至レリ其ノ後桑園漸ク増加スルニ伴ヒ害虫ノ發生

多クナリタルヲ以テ十一年十一月桑園害虫驅除ノ必要ヲ認メ之ヲ勵行スベキ旨布達セリ爾後蠶兒掃立數量ノ増加ト桑園ノ荒廢トニ依リ年々桑葉ノ不足ヲ告ゲ養蠶家ノ不利少ナカラザリシヲ以テ明治四十年ヨリ四十二年ニ至ル三ヶ年間補助金ヲ交付シテ桑園ノ改良増殖ヲ獎勵シタリ明治四十三年八月中旬ニ於ケル大洪水ハ數千町歩ノ桑園ヲ殆ンド荒蕪滅滅ニ歸セシメタルヲ以テ翌四十四年度ニ於テ補助金ヲ交付シ之ガ復舊改植ヲ圖レリ大正八年以來專ラ晚生桑ノ驅逐ヲ爲シ早中生桑ニ改メシムルヲ主眞トシ養蠶組合又ハ其ノ團體ニ補助金ヲ交付シ之ヲ獎勵セリ而シテ昭和二年ヨリハ從來ノ補助政策ヲ改メ縣ハ蠶業試驗場及秩父支場以外尙七ヶ所ニ指導圃ヲ經營シ近時發達セル栽桑ノ技術ト其効果ヲ實際的ニ知ラシムル方法ヲ採レリ(詳細ハ蠶業試驗場參照)

###### 二、現況

本縣ノ桑園段別ハ昭和二年ニ於テハ三萬六百十七町歩ヲ占メ其ノ面積極メテ廣大ニシテ長野、群馬、福島ノ諸縣ニ次ギ全國第四位ヲ占ム而シテ此桑園ノ能率如何ヲ觀ルニ本縣ノ產額ハ昭和二年ニ於テ五百三十一萬三千百四十貫其產額ハ長野、群馬、愛知ノ諸縣ニ次ギ全國第四位ヲ占ム之ヲ桑園一段歩當リ收穫額ニ換算スル時ハ十七貫四百餘匁



四、桑ノ品種

從來栽培セラレタル品種ヲ見ルニ十文字等ノ晚生桑最モ多ク、養蠶經營上不利尠ナカラズ之レヲ急速ニ改メシムル要アルヲ認メ、早中生桑ノ栽培ヲ獎勵シタル結果逐年品種改良ノ實舉リツ、アリ

本縣獎勵桑品種ヲ示セバ次ノ如シ

春蠶主用

多胡、市平

春秋蠶兼用

春日、清十郎、改良鼠返

夏秋蠶主用

改良魯桑、魯國野桑

夏秋蠶稚蠶用

改良鼠返

最近ニ於ケル春蠶用桑園ニ於ケル早中晚生桑栽培段別並其ノ割ヲ示セハ次ノ如シ

年	次	春	蠶	用	早	生	中	晚	生	早	生	中	生	晚	生
大正九年	春	早	生	中	六、六〇	七、九九	七、九九	七、九九	七、九九	六、二六	六、八〇	六、二六	六、二六	六、二六	六、二六
大正十年	春	早	生	中	六、六〇	七、九九	七、九九	七、九九	七、九九	六、二六	六、八〇	六、二六	六、二六	六、二六	六、二六
大正十一年	春	早	生	中	六、六〇	七、九九	七、九九	七、九九	七、九九	六、二六	六、八〇	六、二六	六、二六	六、二六	六、二六
大正十四年	春	早	生	中	六、六〇	七、九九	七、九九	七、九九	七、九九	六、二六	六、八〇	六、二六	六、二六	六、二六	六、二六

品種名	大正九年	大正十年	大正十五年
木桑	七、九九	七、二八一	六、二六九
桑	三、六九四	四、七五六	六、八〇五
黑桑	三、六九九	三、一五四	三、三三〇
魯桑	一、九七三	二、三一六	二、五四九
多桑	一、五三四	一、七三五	一、二二三
市桑	一、二八三	一、八八四	一、三六三
改良早生十文	一、一八九	九三五	六五一

青 甘 赤 清 改 春 魯

樂

良

鼠

十

國

野

桑木 日返郎木桑木

五、栽培  
桑樹ノ仕立法ハ地方ニヨリ夫々異レド山間部即秩父郡地方ハ主トシテ高刈中刈東部平坦  
地方ハ專ラ根刈仕立其ノ中間ニ位スル兒玉大里比企入間等ノ一部地方ハ中刈仕立多シ  
仕立法別桑園段別並其ノ割合

(勸業統計昭和二年六月末日現在)

一、〇三二・九	七五三・八	一二一・二
五八九・三	八一六・二	一四二・二
三一三・二	一八二・四	六四五・一
一一一	一、六〇六・八	一、六〇六・八
一一一	八五三・六	一、六〇六・八
一一一	一五四・七	一、五四・七

都市名	根 刈 仕 立	中 刈 仕 立	高 刈 仕 立	通 立	計
段 別	割 合	段 別	割 合	段 別	割 合
合川	北足立	北入間	北秩父	北兒玉	北葛城
計	一、七七町	一、七〇町	一、七七町	一、七七町	一、七七町
越	六、一〇三・二	二、九九・五	三、一九・三	一、九九・三	一、九九・三
越	一、二七・三	一、二七・三	一、二七・三	一、二七・三	一、二七・三
越	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四
玉	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
玉	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三
玉	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四
玉	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
玉	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四
玉	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
里	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三
里	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四
玉	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
玉	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四
玉	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
父	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三	一、九九・三
父	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四
企	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
企	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四
企	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
企	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四	一、一九・四
企	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

段 別	割 合	段 別	割 合	段 別	割 合	段 別	割 合	段 別	割 合	段 別	割 合
一、七七町	一	一、七〇町	二	一、七七町	三	一、七七町	四	一、七七町	五	一、七七町	六
六、一〇三・二	二	二、九九・五	三	三、一九・三	四	一、九九・三	五	一、九九・三	六	一、九九・三	七
一一一	三	一一一	四	一一一	五	一一一	六	一一一	七	一一一	八
一一一	四	一一一	五	一一一	六	一一一	七	一一一	八	一一一	九
一一一	五	一一一	六	一一一	七	一一一	八	一一一	九	一一一	一〇
一一一	六	一一一	七	一一一	八	一一一	九	一一一	一〇	一一一	一一一
一一一	七	一一一	八	一一一	九	一一一	一〇	一一一	一一一	一一一	一一一
一一一	八	一一一	九	一一一							
一一一	九	一一一									
一一一	一〇	一一一									
一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

六、桑苗  
自家用桑苗ノ生産ハ古クヨリ行ナフレ縣下一般ニ多少生産ヲ見タリシガ輓近桑園改良ト  
共ニ需要激増シ其ノ生産亦著シク增加セリ主ナル產地ハ兒玉郡北足立郡大里郡等ナリ最  
近ニ於ケル趨勢ヲ示セバ左表ノ如シ

桑苗生産額

勸業統計

年次	實生	接木	代出	採取	木其他	計
大正七年	九、五七九、三七〇	五、一五九、五七〇	五、〇六八、四二〇	四、七六六、六〇〇	六八、五四〇	三、一六、三一〇
大正十一年	二、三七一、八〇〇	三、三四〇、八四〇	四、五五〇、六九〇	一、九〇六、九六〇	一〇四、六〇〇	一一、五七、八五三
昭和元年	八、六七四、〇三〇	六、九九五、三六〇	三、〇〇五、一三三	一、九六〇、九七〇	四〇、六〇〇	二、三三、一六三
昭和二年	一〇、一八〇、五五〇	二、〇五、七四〇	五、四二、七七〇	二、六一、二三〇	四〇、七〇〇	三、一〇、九〇〇

## (二) 蟻種

## 一、沿革

慶應年間ヨリ明治初年ノ頃蠅種ノ輸出旺盛ラ極タル結果本縣ノ蠅種業亦著シク勃興スルノ氣運ニ際會シタレドモ之レ全ク一時ノ現象ニ止マリ明治十二三年頃ニ至リテハ輸出殆ンド杜絶スルニ至レリ而シテ其ノ後ハ専ラ國內ノ需要ヲ充タズニ過ギザリシガ養蠅業ノ進展ニ伴ヒ漸次盛大トナリ昭和二年ニ於テハ百四十四萬九千八百八十九枚(二十八蟻換算)ニ達セリ

年次	原蠅種	普通蠅種	計
一、五〇三、〇一七	四四、七九九、一〇六	四六、三〇二、一二三	
一、五〇七、五五四	四六、九七七、〇八八	四八、四八四、六四二	
一、二二五、三三六	三九、八〇六、〇三六	四一、〇三一、三七二	
一、一四九、四二八	四〇、〇八四、六一二	四一、二三四、〇四〇	
一、〇五四、五六四	三七、四七〇、六二八	三八、五二五、一九二	
九〇六、二二〇	三九、一二一、六四四	四〇、〇二七、八六四	
八九二、〇八〇	三八、六三四、七〇九	三九、五一六、七八九	
七四〇、六八四	三八、八三七、三一五	三九、五七七、九九七	
六八六、六六四	三七、六三五、三八七	三八、三二二、〇三一	
一、一八二、三二八	三九、八一八、四四三	四一、〇〇〇、七七一	

## 二、品種ノ變遷

品種ハ明治初年頃ニ至ル迄多ク青白種ト稱スル黃繭種ナリシモ爾後次第ニ白繭種多クナリ明治十四五年頃ニ至リテハ大部分白繭種ト變ゼリ而シテ明治十四年兒玉郡青柳村木村

九藏氏ノ改良セル品種ニ白玉ト命名セリ以來俄カニ種々ノ品種各地ニ產出セラレ其ノ數次第ニ多キヲ加ヘタルガ大正ノ初年頃ヨリ外國系品種漸ク多クナリ加フルニ各種ノ交雜種製造セラレタルヲ以テ其ノ數著シク多キヲ算フルニ至リ產蘿亦從テ雜駁トナリ來レルヲ以テ之ガ整理ノ必要ヲ認メラレ官民一致努力ノ結果漸次優良品種ニ整理セラル、ニ至レリ、殊ニ近年特大諸桂ヲ用ヒタルモノハ製糸原料トシテ不利ナル聲起レリ、今其趨勢並本縣獎勵品種ヲ擧レバ次ノ如シ

### 品種別普通蠶種製造額 (合格蟻數概數) (蠶業取締所調査)

品種名	合		格蟻數	同上總數ニ對スル割合
	大正十三年	大正十四年		
X特青蠶	三三、八七〇	三三、八四二	一五、二五二	一六・九%
X同國蠶	三三、八四二	三三、八二〇	一五、二五二	一六・九%
X同歐蠶	三三、八四二	三三、八二〇	一五、二五二	一六・九%
其 他	三三、八四二	三三、八二〇	一五、二五二	一六・九%
計	三三、八四二	三三、八二〇	一五、二五二	一六・九%
一萬蟻以上 製造數	三三、八四二	三三、八二〇	一五、二五二	一六・九%
大正十三年 合	一一一〇	一一〇九	一一〇九	一一〇九
大正十四年 格	一一〇九	一一〇九	一一〇九	一一〇九
大正十五年 蟻數	一一〇九	一一〇九	一一〇九	一一〇九

品種名	合		格蟻數	同上總數ニ對スル割合
	大正十三年	大正十四年		
X國蠶 支歐蠶	一九、一六〇	一九、一七〇	一六、一五〇	一八・八%
同國蠶 支歐蠶	一九、一六〇	一九、一七〇	一六、一五〇	一八・八%
其 他	一九、一六〇	一九、一七〇	一六、一五〇	一八・八%
計	一九、一六〇	一九、一七〇	一六、一五〇	一八・八%
一萬蟻以上 製造數	一九、一六〇	一九、一七〇	一六、一五〇	一八・八%
大正十三年 合	一一一〇	一一〇九	一一〇九	一一〇九
大正十四年 格	一一〇九	一一〇九	一一〇九	一一〇九
大正十五年 蟻數	一一〇九	一一〇九	一一〇九	一一〇九



護奨勵ニ努メタルヲ以テ本縣ニ於テ亦此趣旨ニ據り之ガ保護奨勵ノ策シタリ、明治六年六月二十九日ニハ皇后、皇太后兩陛下富岡製糸場ヘ行啓ニ際シ、幡羅郡（今ノ大里郡）玉井村蠶種大惣代鯨井勸衛ノ養蠶室ニ臺臨アラセラレ親シク養蠶ノ狀ヲ聴セラレ斯業ヲ御勸奨被遊シヲ以テ縣ニ於テモ告諭ヲ發シ斯業ヲ勵ミ聖旨ニ酬ヒ奉ランコトヲ期セリ、其後屢々告諭布達ヲ發シ又ハ吏ヲ派シテ巡回指導ヲナサシムル等怠リナク斯業ノ奨勵ニ勉メタル結果益々普及發達ノ機運ニ向ヒシガ時恰モ明治十年兒玉郡青柳村木村九藏養蠶改良競進組ヲ組織シ養蠶傳習所ヲ設ケ且教授員ヲ各地ニ派遣シテ斯業ノ開發ニ努メタルヲ以テ、爾來地方篤志者之ニ倣ヒ續々養蠶傳習所ヲ起シ生徒ノ訓育ニ盡セリ、又明治十四年四月養蠶組合概則ヲ布達シ共同的施設ノ下ニ斯業ノ健全ナル發達ヲ計ラシメシガ、明治三十七年四月時局ニ鑑ミ農民ノ執ルベキ方針及諸般ノ施設ヲ要スペキ事項ヲ示シテ之ガ實行ヲ促シ、殊ニ養蠶ニ關シテハ蠶病消毒ノ施行蠶種ノ改良夏秋蠶用桑園ノ特設等ヲ指示奨勵スル所アリタリ。

大正四年度ヨリ補助金ヲ交付シテ之レガ設置及活動ヲ奨勵シタリシガ、大正六年ニ至リ

組合數增加スルニ伴ヒ郡ニ蠶業ニ關スル技術員ノ設置ヲ促カズト共ニ奨勵ノ方針ヲ示シテ郡若クハ郡農會ヲシテ奨勵セシメ、縣ハ其經費ニ對シ補助金ヲ交付シタリ。

輓近生產費節減ヲ本位トスル養蠶方法漸ク隆盛トナラントスル過渡期ニ至ルヤ、昭和

三年ヨリ縣ニ養蠶組合、產業組合又ハ市町村農會ニ於テ養蠶技術員ヲ設置シタル場合、

其ノ經費ニ對シ奨勵金ヲ交付スル事トセリ。

又成績優良ニシテ他ノ模範トナスニ足ル養蠶組合ヲシテ益々其發達ヲ促ガスト共ニ他

ノ組合ヲシテ之レニ倣ハシメンガ爲メ、大正五年以來之ヲ表彰シツ、アリ、昭和二年十

二月現在ニ於ケル養蠶組合數ヘ六百六十五ニシテ其組合員二萬五千二百八十八人ヲ算スルニ至レリ。

養蠶組合ハ前述ノ如ク多數組織スルニ至リタレドモ、各組合倘々ニ活動シ之レガ聯絡統一ナギニ於テハ斯業進展上遺憾ノ點多キヲ以テ郡ヲ區域トスル聯合會ヲ設置セシメ、

同一歩調ニ出ヅルコトノ奨勵ヲナサシメ、郡聯合會並縣養蠶組合聯合會等ヲ設置スルニ至レリ。

## 二、現況

本縣ノ氣候ハ秩父郡ヲ除クト甚シキ懸隔ナシ、而シテ養蠶ハ縣下僅ニ東南部地方ヲ除クノ外各郡ニ普及シ、現ニ全國中樞要ノ地位ヲ占メ年產額五百三十一萬餘貫ニ達シ養蠶戶數八十萬一千餘戶、農家戶數ノ約六割ニ當リ農村ニ於ケル主要生産業トシテ益々健實ナル發展ヲ期シツ、アリ。

今其ノ趨勢ヲ表示セバ次ノ如シ

年	次	總			勵業統計		
		養蠶戶數	掃立枚數	收繭額	春	夏	秋
明治三十五年	九八、四九	三石、七〇	二、四四、六〇	一、三九、八〇	一、二六、三〇	八三、八〇	四六、二〇
明治四十年	九六、〇九	三六、七二	二、五〇、七〇	一、九三、七〇	一、九三、七〇	一一、六〇	二七、六〇
大正元年	九一、七一	三三、零五	二、六七、三〇	一〇五、三〇	一、七九、七〇	一〇六、八〇	一〇六、八〇
大正五年	一〇一、三二	四〇〇、空一	三、二五、六〇	二八、七一	一、九三、七〇	一、九三、七〇	一、九三、七〇
大正十年	九九、九九	一、二四、五〇	三、三三、零五	一、九〇、〇〇	一、九〇、〇〇	一、九〇、〇〇	一、九〇、〇〇
昭和元年	一〇〇、九〇	一、一九、三七	四、五〇、三六	七九、四九	一、九〇、〇〇	一、九〇、〇〇	一、九〇、〇〇
昭和二年	一〇一、三五	一、三九、四六	五、三三、四〇	九七、三五	一、九〇、〇〇	一、九〇、〇〇	一、九〇、〇〇

備考 大正十年以前ノ數量單位石ヲ累年比較便宜上ニ石ヲ十貫トシテ換算計上セリ

### 三、春 蠶

本縣ノ春蠶ハ明治初年頃ハ専ラ天然育ナリシガ、木村九藏氏一度ビ溫暖育ヲ案出シテ以來汎ク其ノ方法行ナハレ、其後明治三十七、八年頃ニ至リ當業者ノ覺醒ト當局ノ獎勵トニ依リ次第ニ學說ヲ基礎トセル折衷育法行ナハル、ニ至レリ、然ルニ輓近諸物價ノ昂騰及勞力ノ拂底ハ斯業ノ經營ニ少ナカラザル困難ヲ來タシ、且交雜種ノ普及ト相俟ツテ飼育法ノ革新急ヲ邇ヘタリ、乃チ縣ハ此趨勢ニ鑑ミ判桑全芽及全芽條桑育ヲ獎勵シタリシニ頗ル機宜ニ適シタル方法ナルヲ以テ、急速ニ普及シ今ヤ從來ノ飼育法ハ此方法又ハ之ニ類似ノ方法ニ一變セリ、而シテ條桑育ニ就テハ其ノ型式亦種々アリト雖、近時大規模養蠶ヲ行フ地方ニ於テハ蠶兒ヲ收容スル座積ノ關係上、遂ニ大多數飼育場所ヲ屋外ニ設ケ所謂屋外條桑育トナレリ。

今其ノ變遷ヲ表示スレバ左ノ如シ

年	次	判桑育	判芽育	全芽育	判桑全芽育	條桑育	計	實	數
大正九年	廿五、〇西	三、六〇	三、七〇	?	二二、七六	廿四、〇九一	一	一	月

養業取締所調査

大正十一年	雪、霰等	ヤ、藍等	三、四四	八、六六	一六、六八	九、三五	九、四七
大正十二年	雪、霰等	ヤ、藍等	二、九五	三、六三	一四、六四	九、四二	九、三六
大正十三年	雪、霰等	ヤ、藍等	三、五五	五、一〇五	二、二〇一	四、五五	九、二三
大正十四年	雪、霰等	ヤ、藍等	三、五六	五、一二	二、二〇一	四、五五	九、二二
昭和元年	雪、霰等	ヤ、藍等	三、五六	五、一二	二、二〇一	四、五五	九、二一
昭和二年	雪、霰等	ヤ、藍等	三、五六	五、一二	二、二〇一	四、五五	九、二〇
昭和三年	雪、霰等	ヤ、藍等	三、五六	五、一二	二、二〇一	四、五五	九、一九
昭和四年	雪、霰等	ヤ、藍等	三、五六	五、一二	二、二〇一	四、五五	九、一八

#### 四、夏秋蠶

明治五年今ノ大里郡八基村橋本呈次郎ノ妻某ガ「葉ノ秋蠶紙ヲ當時歸省中ノ尾高淳忠氏ニ示シタルニ氏ハ「是レ秋蠶ナリ、汎ク之ヲ弘メナバ太ナル國益ナラン」ト身勸業ノ職ニ在リ熱心ニ秋蠶鼓吹者トナリ、上武地方ノ當業者ニ之ガ飼育ヲ獎勵シタリト云フ、是本縣ニ於ケル秋蠶ノ起源ニシテ又實ニ本邦秋蠶ノ鼻祖ナランカ、其後夏秋蠶ノ發達著シク最近ニ於テ其ノ收繭額ハ春蠶ト伯仲セントシツ、アリ、飼育法ハ近時春蠶ニ於ケル同様ノ事情ニ依リ種々ノ飼育法ヲ試ミツ、アリ、乃チ縣ハ此ノ趨勢及ビ稚蠶用桑ノ乏

シキニ鑑ミ秋期稚蠶專用桑園ノ特設ヲ促ガシ、之レニ手術ヲ施シテ全芽ヲ得ル方法ヲ案出シテ秋蠶全芽育ヲ獎勵シ、又溫度ノ適否ハ夏秋蠶ノ豊凶ニ至大ノ關係アルヲ認メ、之レガ調節ニ便ナル適濕育法ヲ案出シテ獎勵セシニ頗ル好成績ヲ擧ゲ急速ニ普及セリ、最近ニヶ年ニ於ケル夏秋蠶飼育法ノ趨勢ヲ見ルニ次ノ如シ。

年 次	戸 數	蠶業取締所調査				總戸數ニ對スル割合
		普通育	密閉育	適溫育	箱 飼	
昭和元年	一八、八六	一五、七五	三〇、三九	四、〇五	一、五五	六・八%
昭和二年	八、九六	三、六五	四、八六	三、六五	一、六二	五・六%
						三・一%
						四・〇%
						一・五%
						一・八%

維新前後迄ハ繭ノ取引ハ皆養蠶家ノ自宅ニ於テ行ハレタリシガ、明治六年富岡製糸場ノ委嘱ニ依リ、兒王郡本庄町開善寺ヲ借受ケ繭ノ買入ヲナス、是レ本庄繭取引市場ノ起源ナリ、當時ハ一般ニ樹取引ナリシモノ其方法タルヤ膏買上弊害勘ナカラザリシヲ以テ明

#### (四) 繭 取 引

治十九年ニハ蘭驗査取締規則ヲ發布セリ、而シテ其ノ後各取引市場ニ於ケル取引數量ノ增加スルニ從ヒ容量取引ニテハ弊害モアリ且ツ不便ナリシ爲明治二十二、三年頃ヨリ漸次秤量取引行ハル、ニ至リ、遂ニ今日ニ於テハ全ク之ニ仍ルニ至レリ、而シテ本庄町ニ於ケル生蘭取引高ハ一時全國中首位ヲ占ムルノ盛況ナリシモ、其ノ後交通ノ便開タルニ至リシト各地ニ製糸工場ノ建設セラレタルトニ依リ、生蘭取引場所モ各地ニ設ケラル、ニ至リ漸次其數量ヲ減シタリ、大正三年本庄町ニ於テハ賣買兩者ノ便ヲ圖ル爲メ、株式會社本庄蘭市場ヲ設ケ大規模ノ取扱場及乾蘭機ヲ備ベテ業務ヲ執ルニ至リ、寄居町ニ於テモ之ニ倣ヒ大正四年蘭糸市場ヲ設置スルニ至レリ、又深谷町附近ニ於テハ富國館、開國館ノ二大製糸場ヲ中心トシ、澁澤治太郎氏等ノ發起ニ依リ西武蠶業改良組合ヲ設ケテ蘭質ノ改良ヲ圖ルト共ニ大正五年ヨリ正量取引ヲ試ミ又石川組製糸場ヲ始メ其ノ他ノ製糸工場ニ於テモ正量取引ニ依リ購蘭シツ、アルモノ歎ナカラズ。

而シテ政府ハ蘭ノ乾燥其他ノ處理方法及其賣買取引制度ニ至リテハ遺憾ノ點、頗ル多ク殊ニ蘭ノ賣買ハ主トシテ生蘭取引ナルガ故ニ蘭ハ其ノ收穫後短時日ノ間ニ賣買ヲ了セザルベカラズ、從テ蘭ノ品質ニ相當スル公正ナル價格ノ決定ヲ困難ナラシメ、且蘭質ヲコトニ改メタリ、其ノ成績ハ蠶業試驗場中ニ記載ス。

### (五) 製絲

本縣ノ製糸業ハ安政年間海外輸出ノ途啓ケテヨリ、漸次進境ニ向ヒ明治九年始メテ器

機製場ノ設立以來、一時勃興シタリト雖當時ハ資金ノ缺乏ト不熟練ノ結果、多クハ經營意ノ如クナラズ期年ナラズシテ一旦衰退セリ、然レドモ明治二十年頃ニ至リ再ビ少數ノ工場起リ明治三十年頃ニ至リテハ更ニ多數ノ工場設立セラレ、爾來年ト共ニ發達シタリ、即チ左表ノ如シ。

年次	種別	器械製絲		座縫製絲		生絲產額合計
		所數	生絲產額	所數	生絲產額	
明治十六年	器械製絲	六?	一〇〇五	三	三七	三七
明治二十二年	器械製絲	七六	一四七三	四	四八	一九一
明治二十五年	器械製絲	八、七九	一八、七九	五	五九	二四、五八
昭和三十一年	器械製絲	三、五三	三、五三	六	六四	九、一四
明治三十五年	器械製絲	三、八三	三、八三	七	七九	一七、六二
明治四十年	器械製絲	八、〇六	八、〇六	八	八九	一七、八五
大正十五年	器械製絲	一三、七九	一三、七九	九	九九	二三、七八
大正元年	座縫製絲	二三、一〇八	二三、一〇八	一〇	一〇九	三三、一〇七
大正四年	座縫製絲	三、三三	三、三三	一	一	三、三三
大正七年	座縫製絲	四、六三	四、六三	一	一	四、六三
大正十年	座縫製絲	九、八四	九、八四	一	一	九、八四
大正十三年	座縫製絲	一三、六七	一三、六七	一	一	一三、六七
昭和二年	座縫製絲	二八	二八	一	一	二八

器械製絲 明治九年高麗郡(今ノ入間郡)上廣瀬村清水宗徳、下村泰作等ノ發起ニ依リ同村ニ六十釜ノ暢業社ト稱スル器械製絲工場設立セラレ、又北埼玉郡成田村ニ三田清三郎外敷名ノ發起ニ依リ埼玉製絲會社ト稱スル器械製絲工場設立セラル、是本縣ニ於ケル器械製絲工場ノ嚆矢タリ、而シテ之等ハ數年ナラズシテ事業ヲ中止シ其後一張一弛時ニ盛衰アリシト雖モ、明治十年頃ヨリ漸次發展シ殊ニ最近ニ至リテハ急速ノ發達ヲ爲セリ、今最近ノ發達情勢ヲ左ニ示サン。

#### 勵業統計

項目	大正元年	大正四年	大正七年	大正十年	大正十三年	昭和二年
工場數	一〇、〇三	三、三三	一六、四六	九、九六	一三、六七	二八
金	三	三	老	老	老	八
工場數	二、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三

組合製絲 座縫製絲ハ明治初年ノ頃既ニ縣下一般ニ行ハレ、明治十年頃ヨリ各地ニ生

絲揚返所ヲ設置シ、明治十八年秩父郡兩神村ニ改仲社設立セラレテヨリ組合製絲ハ漸次其ノ數ヲ増シ、明治三十三四年頃ヨリ碓冰社、甘樂社ノ支部揚返所數十箇所ノ設置ヲ見ルニ至リ、益々發達シテ明治三十八年ニハ兒玉郡本庄町ニ甘樂社ノ分工場ヲ設置シ同社事業ノ一半ヲ取扱フコト、ナリタル爲メ本縣組合製絲モ日ニ月ニ發展スルニ至レリ、而シテ座織製絲ハ、其ノ品質難駁ナルノミナラズ、需要者ニ於テモ器械生絲ヲ歡迎スルニ至リ、且ツ座織製絲ハ生産費高價ナルヲ以テ漸次器械製絲ニ改ムルノ傾向ヲ生ジ明治四十三年碓冰社藤澤組率先シテ器械製絲工場ヲ建設シテ以來、最近急速ノ勢ヲ以テ器械製絲工業ノ設置ヲ見ルニ至リ、組合組織ノ座織製絲ハ今ヤ殆ト其跡ヲ絶ントスルニ至レリ、今最近ニ於ケル發達ノ情勢ヲ左ニ示サン。

項 目	大正元年	大正四年	大正七年	大正十年	大正十三年	昭和二年
工 場 數	六四	三	二	一	零	零
	一、八四	三、零六	三、七〇	三、三九	二、三五	二、三五

而シテ組合製絲ハ群馬縣ニ事務所ヲ有スル碓冰、甘樂ノ兩社ニ所屬シタルモノニ系統ニ所屬スルハ種々ノ弊害ヲ生ズルノミラズ、他縣ノ聯合會ニ所屬スルハ不利不便尠ナカラザルヲ以テ、大正七年五月兩社ヨリ分離脱退シテ新ニ有限責任生絲販賣利用組合聯合會埼玉社ヲ組織シ其ノ事務所ヲ大里郡熊谷町ニ設置スルニ至レリ。

## 五、蠶糸業ノ施設

### (一) 蠶糸課

從來蠶糸業ノ統轄的事務ハ農務課内蠶糸係ニ於テ施行セラレタリシガ、斯業ノ發展ニ伴ヒ昭和三年七月農務課ヨリ分立シテ蠶糸課設置サレ、事務官一名技師八名屬一名技手六名ヲ置キ、蠶糸業ニ關スル一切ノ事務ヲ統轄ス。

### (二) 蠶糸取締所

明治四十四年三月二十八日法律第四十七號ヲ以テ蠶糸業法發布セラレ、同年十二月縣

令第七十四號ヲ以テ施行手續ヲ定メ、翌年一月ヨリ實施セラル、ニ當リ同時ニ縣廳内ニ  
蠶業取締所ヲ縣下七箇所ニ支所ヲ設置シテ一般事務ヲ開始セリ、其後蠶種製造業ノ發達  
ニ伴ヒ製造所數次第ニ増加シ日蠶種ノ製造年ト共ニ増加シ來レルヲ以テ、大正九年ヨリ  
出張所九ヶ所ヲ設置シ、大正十一年更ニ一ヶ所ヲ増設ス、大正十三年三月蠶業取締所本  
所ヲ蠶業試驗場内(大里郡熊谷町)ニ移シ更ニ十四年久喜出張所ヲ廢シテ岩槻、杉戸兩支  
所ヲ設立セシメ、直接蠶糸業法ノ命スル各種蠶病ノ豫防蠶種検査及桑苗生産ノ取締ニ關  
スル事務ヲ處理スルノ外養蠶技術員免許規則及蠶種繭賣買業者取締規則ノ施行ニ當リ、  
之ガ取締ヲ爲ス更ニ大正十五年郡役所廢止セラレテ以來、職員ヲ蠶業試驗場ニ兼務セシ  
メ、獎勵ノ事務モ兼ネ併セ蠶業試驗場ト相俟ツテ蠶糸業ノ改良發達ニ努メツ、アリ。  
而シテ現在本所ノ外支所九、出張所九ニシテ其ノ名稱位置管轄區域等次ノ如シ。

名 称	位 置	管 轄 區 域
埼玉縣蠶業取締所	大里郡熊谷町	埼玉縣一圓
同 浦和支所	北足立郡浦和町	北足立郡一圓

同 川越支所	川越市	入間郡坂戸町	入間郡一圓川越市
同 同 飯能出張所	入間郡飯能町	同 同 郡飯能町	入間郡三芳野村外十一ヶ町村
同 同 松山支所	比企郡松山町	同 同 郡松山町	入間郡三ヶ島村外十八ヶ町村
同 同 秩父支所	同 同 郡小川町	同 同 郡小川町	比企郡一圓
同 秩父支所	同 秩父郡秩父町	同 秩父郡秩父町	比企郡菅谷村外八ヶ町村
同 秩父支所	同 郡小鹿野町	同 郡小鹿野町	秩父郡下吉見村外六ヶ町村
同 秩父支所	同 郡野上村	同 郡野上村	秩父郡野上村外十一ヶ村
同 本庄支所	同 児玉郡本庄町	同 児玉郡本庄町	兒玉郡一圓
同 本庄支所	同 郡兒玉町	同 郡兒玉町	兒玉郡東兒玉村外七ヶ町村
同 青柳出張所	同 郡青柳村	同 郡青柳村	兒玉郡青柳村外二ヶ村
同 熊谷支所	大里郡熊谷町	大里郡熊谷町	大里郡一圓
同 熊谷支所	同 郡深谷町	同 郡深谷町	大里郡明戶村外十ヶ町村
同 加須支所	北埼玉郡加須町	同 北埼玉郡加須町	北埼玉郡一圓
同 加須支所	同 郡羽生町	同 郡羽生町	南埼玉郡羽生町外ナ七ヶ町村
同 槻支所	同 岩槻町	同 岩槻町	南埼玉郡一圓

## 同 杉 戸 支 所 — 北葛飾郡杉戸町 — 北葛飾郡一圓

而シテ之ガ取締ヲ受クベキ昭和三年九月現在ニ於ケル蠶糸業者數左ノ如シ。

三四三 蠶種製造者 一、二五八

三四四 蠶種賣業者 一、二五八

五六一 養蠶者 一〇一、二〇九

五六二 桑苗生産者 二、六九六

五六三 蘭賣買業者 六、〇四一

五六四 生絲製造業者 三九

養蠶技術員 一、七五三

現在蠶業取締所ニ所長一名、技師一名、技手五名、書記一名、主事補一名ヲ支所ニ支所長各一名、技手三十七名、主事補八名常設シ更ニ七月以來百五十九名餘ノ蠶種検査吏員ヲ採用シ、事務ノ遺憾ナキヲ期セリ、職員所屬並ニ最近五ヶ年間ニ於ケル蠶種製造額

茲ニ検査成績ヲ擧レバ左ノ如シ。

所	名	技師又ハ農林技師	農林技手又ハ勵業技	書記又ハ農林主事補
本浦	一	二	二	一
和支所	二	五	五	二
所	八	一	一	一

年次	蠶種製造者數	原蠶種		普通蠶種		合格額計
		總額	合格額	總額	合格額	
大正九年	毛九百零九	一、五〇〇、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五
大正八年	毛九百零二	一、五〇一、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五
大正七年	毛九百零三	一、五〇一、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五
大正六年	毛九百零四	一、五〇一、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五
大正五年	毛九百零五	一、五〇一、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五
大正四年	毛九百零六	一、五〇一、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五
大正三年	毛九百零七	一、五〇一、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五
大正二年	毛九百零八	一、五〇一、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五
大正一年	毛九百零九	一、五〇一、〇七七	二七四、〇四四	一、三七一、〇三四	一、三七一、〇三四	九三四、七九九、二〇六、〇五五

大正十年	三六一、一九九、四八	一〇九、五五	九四〇、六四、大三三、六一、四七五	九七六、七九、八天
大正十一年	三〇七	一〇四、表四	九九、五九	九九、五九、四六
大正十二年	三〇六	一〇七、毛毛	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
大正十三年	三〇六	八六、四九	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
大正十四年	三〇六	九〇、三〇	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
昭和元年	三〇三	八九、〇六〇	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
昭和二年	三〇三	七四、六四	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
	三〇三	六六、六四	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
	三〇三	七六、四七三	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
	三〇三	七七、三九	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
	三〇三	一〇〇、三九	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
	三〇三	一〇〇、三九	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六
	三〇三	一〇〇、三九	九九、三二六四三八、八六、一七七	九九、六六、一四、〇四六

### (三) 蟻業試驗場

大正二年迄ハ農事試驗場ニ於テ蠅業ニ關スル試驗調査ヲ行ヒ來リシモ、時代ノ趨勢ハ原蠅種製造所ノ設置ヲ促シ熊谷町ニ之ガ設立ヲ見、翌大正三年ヨリ原蠅種ノ製造配付ニ着手シ、大正四年ヨリハ一代雜種ノ原蠅種ノ配付ヲナスニ至レリ。

爾來連年其規模ヲ擴張スルト共ニ大正六年ヨリハ夏秋蠅原蠅種ノ配付ヲ開始シ、大正七年度ニ於テハ原蠅種ノ製造配付試驗調査其ノ他蠅糞業獎勵ニ關スル諸問又ハ協議ヲ遂

グル爲メ、原蠅種製造所協議員會ヲ組織セリ。

大正八年ヨリハ製絲ニ關スル試驗調査ヲ爲目的ヲ以テ製糸部ヲ設置シタリ。大正十一年十二月縣告示ヲ以テ埼玉縣蠅業試驗場ト改稱シ、大正十二年四月秩父町ニ

秩父支場ヲ設置シ一層配付蠅種ノ普及ヲ圖レリ。

蠅業試驗場ニ於テ施行シツ、アル事業ノ大様次ノ如シ。

一、原蠅種ノ製造配付

二、蠅糞並ニ製糸ニ關スル試驗調查

三、蠅糞業ニ關スル指導獎勵事務

四、繭檢定規程ニ依ル繭檢定

五、民間ノ委託ニ依ル製糸

六、蠅糞業ニ關スル講習講話實地指導及質問應答

七、桑種苗及標本等配付

八、鑑定分拆

九、蠅業練習生ノ養成

一〇、指導桑園ノ設置並栽桑講習生養成

一、原蠶種ノ製造配付

大正三年以來ノ原蠶種配布數量及本年度配布品種ノ組合セ左ノ如シ。

年 度	別	春 蠶 種	夏 秋 蠶 種	計
昭和元年	正和年	八、六五二 八、一八七 六、三八四	八、六五二 八、一八七 六、三八四	八、六五二 八、一八七 六、三八四
昭和二年	大正年	三〇、二五二 五三、二一四 五二、八三一 四七、九二〇 五一、一六五 五五、一一〇	二、五三八 一〇、二四〇 四〇、一八〇 四二、二一〇 四一、五七五 三三、五七八 六五、五四一	三二、七九〇 六三、四五四 九三、〇一一 九〇、一三〇 九二、六四〇 九三、一四六 一二〇、六五一
昭和三年	大正年	八二、一八〇 八〇、一六四 七八、一三一 七六、七二六	七〇、四六〇 七〇、〇七五 七五、四五五 七七、六九〇	一五二、六四〇 一五〇、二三九 一五五、五七六 一五四、四一六

二、繭檢定規程ニ依ル繭檢定

春

夏

秋

蠶

年

年

年

年

年

年

年

年

(國蠶支一〇七號)

(國蠶支一號)

(國蠶支一〇七號)

(國蠶支四號)

(國蠶支一〇七號)

(國蠶支四號)

(國蠶支一〇七號)

(國蠶支七號)

(國蠶支一〇五號)

(國蠶歐支七號)

現今蠶業者ノ生産セル繭ハ大部分生繭ヲ以テ販賣シツ、アリ、而シテ生繭ノ賣買へ極メテ咄嗟ノ間ニ行ハル、カ爲、繭質相當ノ取引ヲナスニ困難ニシテ延イテハ諸般ノ改良施設ニ支障ヲ來ス事情アルニ鑑ミ、縣ハ蠶業試驗場ニ繭檢定設備ヲナシ、大正十一年度ヨリ繭檢定ヲ獎勵シ乾繭取引ト相俟ツテ繭檢定規程ニヨリ產業組合、養蠶組合又ハ其ノ他ノ團體ノ申請ニヨリ無償ニテ檢定シ以テ公正ナル取引ヲ獎勵シツ、アリ、大正十三年以降ノ概況左ノ如シ。

#### 繭檢定成績

年 度	取引組合數	同上口數		同上數量
		大正十一年	大正十二年	
昭和元年	九一	四四四	三六、八〇二、八四五	萬
昭和二年	一二四	一、七二六	七六、三二一、一四〇	
昭和三年	一六一	五、四九四	一七八、四二二、一九〇	
昭和四年	七八	一、九一九	六一、五六八、八五九	
昭和五年	二三五	四、五八一	一三二、二〇七、九〇〇	
昭和六年	七、八二〇	二二七、四〇三、三八〇		

#### 三、蠶業練習生ノ養成

大正四年以來蠶業ニ關スル技術ヲ收得セシムル爲、蠶業練習生ノ養成ヲ爲シツ、アリ其ノ養成人員左ノ如シ。

年 度	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
人 員	二	二	九	三	五	三	三	三	三	四
年 度	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	計				
人 員	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三
年 度	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	計				
人 員	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

#### 四、指導桑園ノ設置並栽桑講習生養成

昭和二年ヨリ蠶業試驗場同秩父支場及縣下七ヶ所ニ桑園改良指導圃ヲ設置シ、蠶業試驗場ニ於ケル桑ニ關スル試驗研究成績ノ實際的普及ヲ圖ルト共ニ、各指導圃ニ於ケル生産桑苗ハ無償ニテ配付シ桑園改良ノ促進ヲ圖リツ、アリ、其桑園改良指導圃ノ面積次ノ如シ。

浦和指導團  
川越指導團  
松山指導團  
本庄指導團  
加須指導團  
岩槻指導團  
杉戸指導團

四段  
五段  
四段三畝二歩  
四段三畝一歩  
四段三畝一歩  
三段  
三段三畝一歩  
二町八段三畝五歩

**備考** 本場及支場ニ於ケル指導團ノ段別ハ試験場桑園反別中ニ含ム  
大正十年以來栽桑講習ヲ開催シ栽桑ニ關スル技術者ノ養成ニ努メツ、アリシガ、更ニ  
昭和三年以來、將來養蠶組合又ハ農會ニ於ケル栽桑指導者タルベキ者ヲ養成スル目的ヲ  
以テ學理技術ヲ實際的ニ右指導團ニ於テ修得セシメツ、アリ、栽桑講習生養成人員次ノ  
如シ。

年 度 大正十年 大正十一年 大正十二年 大正十三年 大正十四年 昭和元年 昭和二年 昭和三年

人 員	元	區	園	セ	空	三〇	九六	九六
五、蠶業試験場ニ於ケル職員數及設備ノ大略左ノ如シ。	(一) 職員數							

支	本	計	支	場	技師又ハ農林技師	農	林	技	手	書記又ハ農林主事補
支	本	計	支	場	五、一	四	二	五	一	二

（二）設備	本	場	支	場	計
一、敷地	四、五五六坪	二、三五六坪	六、九一二坪		
二、桑園	六町一段八畝一歩	二町二段五歩	八町三段九畝六步		
三、改良	二町八段三畝五步		二町八段三畝五步		
四、建物	一、二三五坪二五五	・ 四一六坪八九	一、六四二坪一四五		

#### (四) 蠶業教育

(1) 縣立蠶業學校  
蠶糸業ニ關スル唯一ノ縣立專門教育機關ニシテ、大正九年度始メテ川越市ニ設置セラレタルモノナリ、現在職員校長外八名生徒一六二名ナリトス。

(2) 縣立熊谷農學校

明治三十五年設立セラレタルモノニシテ、特ニ蠶糸業ニ關スル一科目ヲ設ケ斯業ニ關スル教育ヲ行ヒツヽアリ。  
(3) 縣立秩父農林學校  
明治二十九年設置セラレタル郡立農業學校ヲ大正八年秩父郡立農林學校ト改稱シ、更ニ大正十一年縣ニ移管シ現在ノ名稱ニ改メタルモノニシテ、養蠶ハ秩父郡地方生産業中最モ重要ナルモノナルヲ以テ特ニ蠶糸業ニ重キヲ置キ教育シツヽアリ。

(4) 縣立杉戶農業學校

大正十年設置セラレタル郡立杉戶農學校ヲ大正十二年、縣ニ移管改稱セラレタルモノ

ニシテ特ニ蠶業ニ關スル一科目ヲ設ケ教育シツヽアリ。

(5) 競進社實業學校

兒玉郡兒玉町ニアリ、明治十年木村九藏氏養蠶改良競進組ヲ組織セルニ始マリ、明治十七年競進社ト改メ、明治二十九年實業講究所ヲ設ケ明治三十三年競進社實業學校ト改稱シ、更ニ大正十四年四月ニ至リ、商科ヲ加ヘテ競進社實業學校ト改正シ本邦私立蠶業教育機關ノ權威トシテ許サル。

(6) 飯能實業學校

入間郡飯能町ニ在リ、須田甚作氏ノ經營ニ係ハル、明治三十六年實業傳習所ヲ開キタルニ始マリ、大正七年組織ヲ改メ壽田館實業學校ト稱シテ大正十三年更ニ商科ヲ加ヘテ現在ノ名稱ニ改メタリ。

#### (五) 奨勵施設

蠶糸業獎勵ノ爲メ大正十三年度ヨリ從來縣廳内ニアリシ蠶業取締所ヲ實業試驗場ニ移シ、實業取締所ノ職員ヲ實業試驗場ニ實業試驗場ノ職員ヲ實業取締所ニ相兼務セシメ、

更ニ大正十五年郡役所廢止以來蠶業取締所支所ノ職員ヲ蠶業試驗場ニ兼務セシメ以テ一層獎勵ノ徹底ト能率ノ増進ヲ期シツ、アリ、左ニ獎勵施設ノ概要ヲ示セバ次ノ如シ。

### 一、桑園ノ改良

#### (イ) 桑園改良指導圃設置

蠶業試驗場同秩父支場及縣下七ヶ所ニ桑園改良指導圃二町八反歩ヲ設置シ、蠶業試驗場ニ於ケル桑ニ關スル試驗研究成績ノ實際の普及ヲ圖ルト共ニ各指導圃ニ於ケル生産桑苗ハ無償ヲ以テ配付シ、桑園改良ノ促進ヲ企圖セムトス尙之ニ當ラシムル爲蠶業試驗場ニ桑園改良專任技術員一名ヲ設置ス。

#### (ロ) 栽桑講習生ノ養成

右指導圃ニ於テ將來養蠶組合又ハ農會ニ於ケル栽桑指導者タルベキ者ヲ養成シ、桑ニ關スル學理及技術ヲ實際的ニ修得セシメムトス。

講習期間ハ四月ヨリ翌年三月ニ至ル一ヶ年トス

### 二、養蠶改良

#### (イ) 乾繭取引獎勵ノ任ニ當ラシムル爲左記縣下乾繭販賣利用組合ニ技術員ヲ配置ス

#### 記

##### 比企郡 比企郡乾繭販賣利用組合

##### 大里郡 大里郡乾繭販賣利用組合

##### 北埼玉郡 北埼玉郡乾繭販賣利用組合

##### 入間郡 入間郡乾繭販賣利用組合

##### 北葛飾郡 北葛飾郡乾繭販賣利用組合

(ロ) 養蠶組合ニシテ優良ナル成績ヲ收メ、他ノ模範トナスモノニ對シ獎勵金ヲ交付シ之ヲ表彰セムトス。

(ハ) 蠶業改良獎勵ノ爲養蠶組合產業組合又市町村農會ニ於テ養蠶技術員ヲ設置シタル場合、其ノ經費ニ對シ縣ハ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス。

(ニ) 縣養蠶組合聯合會ニ對シ事業獎勵ノ爲補助金ヲ交付ス。

(ホ) 乾繭場設置獎勵ノ爲市町村、市町村農會產業組合同聯合會養蠶組合同聯合會及蠶業ノ發達ヲ目的トスル公益法人ニシテ、一晝夜生繭四十石以上本乾燥ヲナシ得ベキ設備ヲ有スル乾繭場ヲ設置シタルトキ縣ハ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス。

- (エ) 蘭ノ取引乾蘭共同貯蘭ノ便宜又ハ蘭質ノ改良ニ資スル爲、當業者ノ申請ニ依リ  
蘭ノ検定ヲ行フ。
- (ト) 養蠶教師素質向上ノ目的ヲ以テ、大正十四年五月養蠶技術員免許規則ヲ制定ス  
ルト共ニ之ガ取締ヲ勵行シツ、アリ、
- 三、製糸ノ改良
- (イ) 農林技師一名、農林技手六名ヲ蠶業試驗場ニ常置シ、製糸ニ關スル指導獎勵並  
器械製糸工場屑物整理講習會ニ派遣シ實地指導ヲナサシム。
- (ロ) 生糸販賣利用組合聯合會埼玉社ニ對シ製糸技術員養成獎勵ノ爲補助金ヲ交付ス

## 六、蠶絲業團體

### (一) 埼玉縣蠶絲業組合聯合協會

大正八年十一月縣下蠶糸業ニ關スル主ナル團體ヲ以テ組織サレ、組織團體相互ノ聯絡  
ヲ圖リ共通ノ利益ヲ増進シ蠶糸業ノ改善進歩ヲ期スルヲ以テ目的トセリ、事務所ハ縣廳  
業組合、埼玉縣養蠶技術協會、埼玉社、埼玉縣蘭糸同業組合、埼玉縣桑苗同業組合ノ八  
團體ナリ、最近五ヶ年間ノ組合經費豫算左ノ如シ。

年 度	大正十三年	大正十四年	昭 和 元 年	昭 和 二 年	昭 和 三 年
經 費 豫 算	一、七七 円	一、七七 円	一、七七 円	一、七七 円	一、七七 円

### (一) 埼玉縣桑苗同業組合

昭和二年八月ノ設立ニシテ、桑苗ノ生産販賣又ハ其賣買ヲ業トスル者ヲ以テ組織シ九  
支部ヲ置ク、組合員ノ共同一致互ニ信義ヲ守リ桑苗營業上ノ弊害ヲ矯正シ斯業ノ改良發  
達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ、營業品ノ検査ヲ行フ事ヲ以テ主ナル事業トス、事務所ヲ埼玉  
縣蠶業試驗場内ニ置ク、創設以來ノ經費豫算並ニ組合員數左ノ如シ。

年 度	昭和二年		昭和三年	
	組合費	員數	組合費	員數
	九、三九〇 円	二、六一六人	九、三九〇 円	二、六一六人

### (三) 埼玉縣蠶種同業組合

明治四十三年五月設立セラレタル埼玉縣蠶種同業組合聯合會ノ組織ヲ變更シ、大正七年五月設置セラレタルモノニシテ、縣下ノ蠶種製造者ヲ以テ組織シ九支部ヲ置ク、營業上ノ弊害ヲ矯正シ、組合員相互ノ利益ヲ増進シ斯業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トセリ而シテ始メ事務所ハ縣廳内ニ置キタリシガ、大正十三年四月埼玉縣蠶業試驗場内ニ移セリ。

現在組合員三百四十三名ニシテ、最近五ヶ年間本部ニ於ケル經費豫算並ニ組合員數ヲ示セバ次ノ如シ。

年 度	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年

組合員數	二、九二人	二、九二人	二、九二人	二、九二人	三、八三人

### (四) 埼玉縣蠶種販賣同業組合

大正十年五月縣下蠶種販賣業者名ヲ以テ組織シ七支部ヲ置キ、蠶種販賣上ノ弊害ヲ矯正シ優良蠶種ノ普及ヲ圖リ營業上ノ信用ヲ保持シ、組合員共同ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トセリ、而シテ事務所ハ縣廳内ニアリシガ、大正十三年四月埼玉縣蠶業試驗場内ニ移セリ、現在組合員數ハ八七〇名ニシテ、最近五ヶ年間ノ組合本部ニ於ケル經費豫算並ニ組合員數左ノ如シ。

年 度	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年

組合員數	一、三五人	一、二六人	一、二六人	一、二六人	一、二六人

主ナル事業ハ講習講話等ノ開催ナリ。

### (五) 埼玉縣蠶種冷藏業組合

大正十年一月縣下ノ蠶種冷藏業者ヲ以テ組織シ、組合員協同一致シテ斯業ノ改良ヲ圖リ營業上ノ弊害ヲ矯正シ、其利益ヲ増進スルヲ以テ目的トセリ、而シテ事務所ハ蠶業試驗場ニ置ク、現在組合員數ハ九名ニシテ最近五ヶ年間ノ經費豫算左ノ如シ。

年 度	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年
經 費 豫 算	三円	九三円	空	空	全円
組合員數	三五人	一〇六人	一〇八人	八三人	空
經費豫算	一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円	一〇四円	空

主ナル事業ハ斯業ニ關スル講習印刷物ノ配布等ナリ。

### (六) 埼玉縣養蠶組合聯合會

大正十年三月各郡養蠶組合聯合會ヲ以テ組織サレ、組織團體相互ノ聯絡ヲ圖ルハ勿論蠶糸業ニ關スル各種團體トノ氣脈ヲ通ジ、養蠶業ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トセリ、

而シテ事務所ハ縣廳内ニ置キタリシガ、大正十三年四月埼玉縣蠶業試驗場内ニ移セリ。  
最近五ヶ年間ノ組合經費豫算並ニ組合員數左ノ如シ。

年 度	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年
經費豫算	一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円
組合員數	三五人	一〇六人	一〇八人	八三人	空
經費豫算	一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円	一〇四円	空

主ナル事業ハ養蠶組合經營共進會ノ開催、桑葉及繭相場速報等ノ諸調査ナリ。

### (七) 埼玉縣養蠶技術協會

大正十年四月縣下ノ養蠶指導ニ從事スル者ヲ以テ埼玉縣養蠶指導協會ナルモノヲ組織シ、事務所ヲ縣廳内ニ置キ各種ノ團體ト氣脈ヲ通ジ蠶糸業ノ利益増進ヲ圖リツ、アリシガ、大正十三年四月事務所ヲ埼玉縣蠶業試驗場内ニ移轉シ。更ニ大正十五年四月、組織ヲ變更シテ、埼玉縣技術協會ト改稱シ、縣内ニ於ケル養蠶指導ニ當ル者又ハ本縣内ニ住居シ縣外ニ於テ、養蠶指導ニ從事スルモノ及現ニ養蠶指導ヲ爲ザル者ト雖モ、本會ノ

趣旨ニ替成スル者等ヲ以テ組織シ、會員相互ノ氣脈ヲ通ジ且學藝ト人格ノ向上ニ勉メ蠶業ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トセリ、最近四ヶ年ノ協會經費豫算並ニ會員數ヲ示セバ左ノ如シ。

年	度	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年
組合員數	一、〇〇人	一、四九〇人	七、四五〇人	一、三三五人	九三三人

本會ノ目的ヲ達スル爲施行スペキ業務ノ概要ハ蠶業ニ關スル品評會、講習會、講話會ノ開設、蠶業ニ關係アル功勞者ノ調査表彰、官廳ノ諮詢ニ應ズルコト、蠶業ニ關スル諸般ノ調査研究等ナリ。

#### (八) 埼玉縣蠶繭協會

昭和二年十月郡以上ヲ區域トスル繭販賣利用組合ヲ以テ組織シ、繭ノ販賣ニ關スル事項、金融ニ關スル事項、桑ニ關スル事項、蠶種ニ關スル事項、育蠶ニ關スル事項、養蠶

保険ニ關スル事項等ノ事業ヲ行フヲ以テ其目的トス。

#### (一) 經費豫算並ニ組合數

名稱	事務所所在地	在地員數	現在組合數	資產			設立年月
				出資總額	拂入済出資金	農林省助成金	
有限責任比企郡繭販賣利用組合	大里郡乾入間郡	六、三三人	三三、七七人	一、〇〇〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇〇〇	大正十三年四月
同	川熊谷市	九、九六人	二三、七九人	二〇〇、〇〇〇〇〇	一七〇、〇〇〇〇〇	一七〇、〇〇〇〇〇	大正十四年四月
同	越市	三、五五人	一、一〇〇人	一、一〇〇〇〇〇〇〇	一、一〇〇〇〇〇〇〇	一、一〇〇〇〇〇〇〇	昭和元年四月

#### (二) 所屬組合ノ狀況

年	度	昭和二年	昭和三年	昭和三年十一月現在
組合員數		七〇〇人	七〇〇人	
資產				
出資總額				
拂入済出資金				
農林省助成金				
乾繭機臺數				
繭能力晝夜臺				
收客力				
倉庫數				
設立年月				

年	度	昭和二年	昭和三年	昭和三年十一月現在
組合員數		七〇〇人	七〇〇人	
資產				
出資總額				
拂入済出資金				
農林省助成金				
乾繭機臺數				
繭能力晝夜臺				
收客力				
倉庫數				
設立年月				

同 蘭販賣利用組合		北葛飾郡	幸手町	北葛飾郡	同 蘭販賣利用組合	北埼玉郡	加須町	北埼玉郡	同 蘭販賣利用組合	南埼玉郡	同 蘭販賣利用組合	南埼玉郡	同 蘭販賣利用組合	同 蘭販賣利用組合	同 蘭販賣利用組合
一、四五五		三〇,〇〇〇	二八四六	一、〇〇一	一、〇〇一		一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一		一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一		大正十五年
五、八八七		一〇〇,〇〇〇	二三・七〇〇	七三・五五	七三・五五		七三・五五	七三・五五	七三・五五		七三・五五	七三・五五	七三・五五		大正十五年
三、八八三		二〇,〇〇〇	開事業始末	一	一		一	一	一		一	一	一		大正十五年
一		二〇,〇〇〇	開事業始末	一	一		一	一	一		一	一	一		大正十五年
一		一	一	一	一		一	一	一		一	一	一		昭和三年
一		一	一	一	一		一	一	一		一	一	一		昭和三年

(三) 最近二ヶ年ノ生蘭受託數量

年 度	比企郡蘭販賣利用組合	大里郡乾蘭敷販賣利用組合
昭 和 二 年	一二三・六一〇・八〇〇 (貫)	七〇・四二五・二一〇
昭 和 三 年	二一〇・〇一六・〇〇〇	一五五・四七九・一三〇

### (九) 埼玉縣蘭絲同業組合

大正八年五月ノ設立ニナル、埼玉縣兒玉郡蘭糸同業組合ヲ大正十四年五月定款ノ改正ヲナシ、埼玉縣蠶糸同業組合ト改稱シ、縣下一圓ヲ地區トスル蠶糸賣買業、蠶糸仲立及周旋業、蠶糸屑物賣買業者ヲ以テ組織シ、事務所ヲ埼玉縣蠶業試驗場内ニ置ク、各蠶糸業團體ト氣脈ヲ通シ、組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其利益ヲ増進スルヲ以テ目的トナス、最近ニ於ケル組合ノ經費豫算並ニ組合員數次ノ如シ。

年 度	大正十四年	昭 和 元 年	昭 和 二 年	昭 和 三 年
組 合 費 算	九、六六・四四人	六、四六・四四人	八、四九・九〇人	八、七一・九〇人
組 合 員 數	五、九九六	五、七九六	五、七九六	五、七九六

### (一〇) 埼玉縣製絲同業組合

大正二年縣下ノ器械製糸業者(產業組合ヲ除ク)ヲ以テ組織シ、組合員相互ノ氣脈ヲ通

ジ、協同一致營業上ノ弊害ヲ矯正シ、斯業ノ改良發達ヲ圖リ組合員ニ永遠ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トセリ、而シテ事務所ハ熊谷町ニ置キタリシガ、大正六年之レヲ縣廳内ニ移シ、更ニ大正十三年四月埼玉縣營業試驗場内ニ移セリ、現在組合員ノ繰糸總金數一萬三千四百七十三金ニシテ、最近五ヶ年ノ組合經營豫算並ニ組合員數左ノ如シ。

年 度	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年
組合員數	五、七九四人	六、〇九四人	八、〇四三人	五、九三三人	八、八六六人
經費豫算					
年 度	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年

主ナル事業ハ養成工女ノ登録、優良工男女表彰、講習會開催、印刷物ノ購入配付諸調査等ナリ。

### (一) 有限責任生糸販賣利用組合聯合會埼玉社

大正七年ノ設立ニシテ本縣内ニ主タル事務所ヲ有スル生糸販賣ヲ目的トスル販賣組合又ハ生糸販賣ヲ兼營スル組合ヲ以テ組織シ、所屬組合ノ賣却スル生糸ヲ賣却スルコト、

所屬組合ニ必要ナル設備ヲ利用セシメルコト等ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス。

同聯合會ハ設立當初ニ在リテバ、熊谷町ノ公會堂ヲ假用シ僅カニ事業ヲ經營シツ、アリシガ、大正八年ニ至リ事務所ヲ大里郡寄居町ニ移轉シ、機械製糸場、乾繭設備、貯蔵庫等ヲ增設シテ以來、繭質ノ鑑定及教婦ノ養成等ノ事業ヲ行ヒ、所屬組合ノ便益ヲ増シ、斯業ノ發達ニ貢獻シツ、アリ、昭和三年七月現在ノ所屬組合數ハ四十組合（内座織組合二組合）設備總金數二千五百三十六金ニシテ、最近五ヶ年間ノ生糸販賣數量並ニ價額次ノ如シ。

年 度	別 別	販 賣 數 量	販 賣 價 額
大正十二年		一六、〇一一、五〇九 <small>販賣量</small>	一、九九八、二五九、四三 <small>販賣價額</small>
大正十三年		一七、四五八、四一〇	二、一二二、七二〇、八〇
大正十四年		一九、〇四六、五〇二	二、二六八、四五四、三三
昭和二年		二一、二七二、四三四	二、〇一六、六九〇、三七
		三〇、一〇四、一六五	二、五六四、五七〇、九八

### (一三) 大日本蠶絲會埼玉支會

明治三十九年九月設置セラレタル大日本蠶絲會埼玉委員部ハ即チ支會ノ前身ニシテ、明治四十二年二月本會定款ノ變更ニ伴ヒ之ヲ改メテ埼玉支會トナス、初メ事務所ヲ縣廳内ニ置キタリシガ、大正十三年四月之ヲ埼玉縣蠶業試驗場内ニ移セリ、而シテ本會事務ノ進捲ヲ圖ルベク各郡ニ委員部ヲ設ケ其事務ヲ執リツ、アリ。由來本會ハ斯業ニ關スル講習講話及各種ノ施設ヲナシ、縣下蠶業ノ改良發達ニ資スル處尠ナカラズ、現在會員數實ニ一萬七千三百五十二名ノ多キニ達セリ。

### 七、蠶絲業統計資料其他

#### (一) 桑園段別(其一)

勵業統計 昭和二年六月末現在

年次又ハ郡市　春　蠶用　夏秋　蠶用　計　桑畠一段步付  
平均取繭高

北	南	北	大	昭	和	正	正	大	川	足	越	(市)	飾	玉	玉	里	玉	父	企	間	立
葛	埼	埼	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛
五	右	八	七	六	五	四	八	七	六	五	四	三	三	二	一	一	零	零	一	二	一
三	五	六	七	六	五	四	八	七	六	五	四	三	三	二	一	一	零	零	一	二	一
二	四	三	二	一	零	一	二	一	零	一	零	一	零	一	零	一	零	一	一	一	一
一	三	二	一	零	一	一	一	一	零	一	零	一	零	一	零	一	零	一	一	一	一
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	五	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九



川越市 北足立 入間 比企 秩父 大里 北埼玉 南埼玉 計	1-1月 收 蘭			4-8月 貨			10月 貨			11月 貨			12月 貨		
	上蘭	玉蘭	肩蘭	上蘭	玉蘭	肩蘭	上蘭	玉蘭	肩蘭	上蘭	玉蘭	肩蘭	上蘭	玉蘭	肩蘭
養蠶															
戶數															
枚數															
掃立															
種類															
上蘭															
玉蘭															
肩蘭															
計															
1-1月 收 蘭															
4-8月 貨															
10月 貨															
11月 貨															
12月 貨															

## (五) 養 蠶(春 蟶)

郡市別	收 蘭			價 額		
	上 蘭	玉 蘭	肩 蘭	上 蘭	玉 蘭	肩 蘭
川越市						
北足立						
入間						
比企						
秩父						
大里						
北埼玉						
南埼玉						
計						
1-1月 收 蘭						
4-8月 貨						
10月 貨						
11月 貨						
12月 貨						



## (七) 養蠶成績累年比較表







郡市名	製造者數	春期	服	樞	製	造	高
	實數	春秋期	春秋期	計	春秋期	春秋期	計
北足立	六、九〇	一、七〇	一、七〇	二、四〇	一、七〇	一、七〇	二、四〇
北埼玉	九、五〇	一、七〇	一、七〇	二、四〇	一、七〇	一、七〇	二、四〇
南埼玉	一、四〇	一、四〇	一、四〇	二、四〇	一、四〇	一、四〇	二、四〇
北葛飾	一、三〇	一、三〇	一、三〇	二、三〇	一、三〇	一、三〇	二、三〇
北越	八、三〇	一、三〇	一、三〇	二、三〇	一、三〇	一、三〇	二、三〇
計	一八九	一八九	一八九	三六八	一八九	一八九	三六八

## (八) 蟻種製造者數並蠅種製造高

郡市名	製造者數	春期	散卵	平付	計
	實數	春秋期	春秋期	春秋期	計
北足立	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇
北埼玉	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇
南埼玉	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇
北葛飾	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇
北越	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇
計	四六八	四六八	四六八	四六八	四六八

(用又ハ夏秋蠅用ノ目的ヲ以テ栽培シタルモノニシテ實際ニ於テハ春蠅用又ハ夏秋蠅用ヲ目的トスル桑園ニ  
收蘭高ヲ示サルハ之ガ爲ナリ)

## (九) 養蠶組合調

郡市名	組合數	大正六年	組合員數	大正九年	組合數	大正十三年	組合員數	昭和二年	組合數
北川	一、五三	四、七〇	一、七〇	二、六七	一、三〇	三、〇三	一、七〇	二、七六	一、七〇
入用	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
比越	一、二六	一、二六	一、二六	一、二六	一、二六	一、二六	一、二六	一、二六	一、二六
大葛	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
兒埼	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
秩埼	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
足埼	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
市	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
名	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇

## (一〇) 器械繩絲金數及戶數

郡市名	組合數	大正六年	組合員數	大正九年	組合數	大正十三年	組合員數	昭和二年	組合數
未十 滿金	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇
未五十 金以上 滿	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
未上百 五十金以 滿	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
未三百 百金以 滿	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
未五百 百金以 滿	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
未一千 千金以 上	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
合計	八、八〇	八、八〇	八、八〇	八、八〇	八、八〇	八、八〇	八、八〇	八、八〇	八、八〇





## (一五) 名所舊蹟

北埼玉	南埼玉	川越	計
一、三十六 二、五、八六	一、一三 二、五、三三	一、一二三 二、五、七八	一、三七、〇九八
二、五、四〇 一、五、七四	一、三七、七〇 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、〇四〇 二、五、三三
三、二三 一、三七、七一〇	三、二三 一、三七、七一〇	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四
一、三七、七一〇 二、五、七四	一、三七、七一〇 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四
二、五、七四 一、五、七四	二、五、七四 一、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四
一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四
一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四
一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四
一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四
一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四	一、五、七四 二、五、七四

名稱	所在地	摘要
大宮氷川神社	北足立郡大宮町	延喜式内名神大社にして武藏國の一の宮たり明治元年十月天皇行幸御親祭あり勅祭の詔書
中社幣金鑄神社	東北本綫大宮町	古神は天照大神素盞鳴尊を奉祀す境内に水川公園として境内の

熊谷寺	岩殿觀音	不動岡不動尊	聖天	社縣三峰神社
大里	(東武鐵道東上線高坂駅より約半里自動車便あり)	北埼玉	秩父郡大瀧村	北埼玉
郡	(高崎線熊谷駅より)	(東武鐵道本線加須岡駅より)	(里半自動車の便あり)	(里半自動車の便あり)
比	(高崎線熊谷駅より)	(東武鐵道本線加須岡駅より)	(高崎線熊谷駅より)	(高崎線熊谷駅より)
企	(高崎線熊谷駅より)	(東武鐵道本線加須岡駅より)	(高崎線熊谷駅より)	(高崎線熊谷駅より)
十	(高崎線熊谷駅より)	(東武鐵道本線加須岡駅より)	(高崎線熊谷駅より)	(高崎線熊谷駅より)
五	(高崎線熊谷駅より)	(東武鐵道本線加須岡駅より)	(高崎線熊谷駅より)	(高崎線熊谷駅より)
町	(高崎線熊谷駅より)	(東武鐵道本線加須岡駅より)	(高崎線熊谷駅より)	(高崎線熊谷駅より)
のせもの城址に在るが、その跡は西隣の蓮生庵と號す。また、この附近に直實の墓がある。	して養老年間僧逸海の建立せし遺蹟なり。	して岩殿觀音の名夙に世に著はる坂東十番の札所に	玉壽山總願寺と號す。本尊は智證大師作(空海の弟子)である。	延喜式内名神大社にして武藏國の一の宮たり。明治元年十月天皇行幸御親祭あり。勅祭の詔書
の北隅に直實の墓がある。	花菖蒲の花等季節に應じて衆目を樂しまし。	花菖蒲の花等季節に應じて衆目を樂しまし。	花菖蒲の花等季節に應じて衆目を樂しまし。	古神は天照大神素盞鳴尊を奉祀す。境内に水川公園として境内の
の城址に在るが、その跡は西隣の蓮生庵と號す。また、この附近に直實の墓がある。	花菖蒲の花等季節に應じて衆目を樂しまし。	花菖蒲の花等季節に應じて衆目を樂しまし。	花菖蒲の花等季節に應じて衆目を樂しまし。	古神は天照大神素盞鳴尊を奉祀す。境内に水川公園として境内の



行幸堤	北葛飾郡
入	(東北本線久喜駅より約半里半馬車の便あり)
忍城址	比企郡(駒込東上線松山村)
北埼玉	北埼玉(秋父鐵道行田町)
高麗王若光の墓	間(武藏郡高麗王若光之墓)

穴篇二百餘あり之を遙望すれば宛峰巣の如く寛名あり即ち權現堂堤にして明治九年明治天皇奥羽御巡幸の砌長くも鳳鶴を駕めさせ給ひしより此の名あり

穴篇二百餘あり之を遙望すれば宛峰巣の如く寛名あり即ち權現堂堤にして明治九年明治天皇奥羽御巡幸の砌長くも鳳鶴を駕めさせ給ひしより此の名あり

有餘の岩窟と並びて松山城址あり其の絶壁を掘鑿二十手以來ふ

穴篇二百餘あり之を遙望すれば宛峰巣の如く寛名あり即ち權現堂堤にして明治九年明治天皇奥羽御巡幸の砌長くも鳳鶴を駕めさせ給ひしより此の名あり

有餘の岩窟と並びて松山城址あり其の絶壁を掘鑿二十手以來ふ

昭和三年十一月一日印刷  
昭和三年十一月二日發行

【非賣品】

# 大日本蠶絲會埼玉支會

埼玉縣浦和町二〇六番地  
山本堅太郎

印刷者

埼玉縣浦和町二〇六番地

印刷所

山本印刷所

埼玉市立図書館

埼玉県立浦和図書館



30007666